
令和2年度 島根県立矢上高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」 活動報告書

おおなん協育プロジェクト
～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～



島根県立矢上高等学校

目次

はじめに	2
本事業の概要	3
I：総合的な探究の時間の再構築	5
・総合的な探究の時間（1年）	10
・総合的な探究の時間（2年）	17
・総合的な学習の時間（3年）	31
II：教科横断型カリキュラムの開発	34
・令和2年度に開発した教科横断型プログラム	35
III：学校設定教科「起業探究」の設置	39
イベント報告	42
・課題解決型学習発表会／令和2年12月20日（火）	
・未来フォーラム／令和3年1月27日（水）	
・探究学習シンポジウム／令和3年2月20日（土）	
実施体制報告	47
・運営指導員会	
・コンソーシアム総会	
取り組み成果と次年度に向けて	49
新聞等掲載	51

矢上高校と地域の未来に向かって

島根県立矢上高等学校 校長 志波英樹

70 有余年の歴史と伝統をもつ矢上高等学校は、創立時に住民みずからが協力して校舎建設に参加したというエピソードが物語るように、地域から格別の愛着と期待を受けながら、地域とともに歩んできた学校です。これまでも、授業、部活動、学校行事から環境整備に至るまで、あらゆる部分で邑南町ならびに地域の方々からの手厚い支援を受けながら、教育活動を展開してきました。

平成 23 年度から島根県の高校魅力化事業が始まると、地域との協働体制はさらに強固なものになっていきます。平成 27 年度には“ふるさとを思い地域をつくる人づくり”を基本理念とする「矢上高校将来ビジョン」を策定して、邑南町の未来を支える地域人材の育成に取り組んできました。令和 2 年度には、「第 2 期矢上高校将来ビジョン」を策定するとともに、「矢上高校と地域の未来をつくる会(コンソーシアム)」を立ち上げ、新たなスタートを切ったところです。

そのような中、文部科学省が「高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する」ことを目的とした「地域との協働による教育改革推進事業」を開始しました。令和 2 年度から 3 年間、この事業(地域魅力化型)の指定を受けることができたことは、従来からの地域連携を土台としながら新たな協働体制の構築をめざしていた本校の動きと時宜にかなひ、マッチングしたものになったのではないかと考えます。

「第 2 期矢上高校将来ビジョン」では、基本方針の中に「地域との連携による教育活動の推進」、「学力・社会力・人間力の情勢とふるさとの未来を担う人材の育成」を掲げることにより、地域と密着して教育活動を展開していきながら、地域の未来を支える人材を輩出していくという方向性を明確に打ち出しました。またコンソーシアムには、地元自治体として邑南町と邑南町教育委員会、高等教育機関として島根大学と島根県立大学、産業界から邑南町商工会、邑南町進出企業会、JA しまね島根おおち地区本部、医療法人徳祐会、公立邑智病院など、地元経済を支える多彩な団体に参画していただきました。

「おおなん協育プロジェクト～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～」と銘打った本事業は、「総合的な探究の時間」、学校設定教科「起業探究」、教科横断型カリキュラムの開発を軸としながら、地域課題解決型学習を推進していくプログラムとなっています。これらの取組を、第 2 期ビジョンに示す活動内容やコンソーシアム構成団体との関係性を意識しながら、体系的に進めていくことが、何よりも肝要であると考えています。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症流行により、地域に出かけて行う活動が予定通りにできなかつたり、成果発表の場を兼ねた立命館大学への研修旅行を中止したりといった影響が出ました。そのような困難な状況にあっても、初年度にあたる生徒たちは、私たちの予想を超えて活発に活動してくれました。初めての試みとして実施した普通科と産業技術科の課題研究合同発表会も、これからの両科の協奏に向けた可能性を大いに感じさせてくれるものでした。今後生徒たちがどのような成長をみせてくれるのか、とても楽しみです。

最後になりますが、本年度の活動にあたり、関係の皆様のご支援ご協力に心より感謝いたします。引き続き、矢上高校と地域の未来に向けて取組を充実させていく所存ですので、これからもご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

本事業の概要

(1) 研究開発概要

“おおなん協育プロジェクト～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～“

本校普通科において、地域人材を育成するためには、地域に飛び込み、地域住民と関わる中で課題を見つけ、多様な人々と協働し、教科や地域の歴史や文化といった様々な知恵を結集させ、課題解決を実践するカリキュラムを作ることが重要である。「邑南町住民や行政」「本校産業技術科」「大学等専門機関」との協働による教育（協育と呼ぶ）を図り、普通科の生徒が自ら問いを立て、本校独自の地域探究ができるようにする。これら3つの協育による教材を、Ⅰ「普通科の総合的な探究の時間の再構築」やⅡ「教科横断カリキュラムの整備」、Ⅲ「学校設定教科『起業探究』の設置等」に合わせたものとして作成し、検証・普及させることで、邑南町及び本校独自の地域課題解決型学習モデルを築き、邑南町総がかりで地域人材の育成を図る。

(2) 目的・目標

本校のある邑南町は、中国山地の山間にある約1万人の町である。高齢化率は43%を超え、2040年消滅可能性都市に挙げられている。本校は邑南町唯一の高校として、これまでも地域を支える多くの人材を育成してきたが、町の人口減や高齢化が進む中で、地域を支えるだけでなく、地域の未来を担う人材の育成がさらに求められている。そこで、邑南町民・行政、本校産業技術科・大学等専門機関と協働し、総合的な探究の時間の再構築、教科横断型プログラムや学校設定教科の設置など、地域と生徒が協働で課題解決できるよう普通科のカリキュラムを整備し、地域の未来を担う人材を輩出することを本構想の目的とする。

(3) 育みたい地域人材像 「ふるさとを思い 地域の未来をつくる人」

育みたい地域人材は、「ふるさとを思い 地域の未来をつくる人」である。邑南町で就職や起業することによって、地域の発展に貢献する人であり、邑南町外にいてもふるさとへの愛着を忘れず、関係人口として地域を支える人であり、そのどちらも邑南町を持続可能な町として、未来を作っていく人である。

《資質・能力》は次のとおりである。

- 1：目標達成や課題解決の基盤となる学力や技能
- 2：地域の魅力や課題を発見し、目標達成や課題解決方法を探究する力
- 3：主体的かつ他者と協働する力

(4) 取組内容

- ①総合的な探究の時間の再構築
- ②教科横断カリキュラムの整備
- ③学校設定教科「起業探究」の設置

おおなん協育プロジェクト ～ 邑南町総がかり！ 協働で育む“協育”カリキュラムの開発～



＜1学年＞地域と自身を知る

総合的な探究の時間

- ＜地域探究技法を習得する＞
- ・地域探究技法講座
- ・行政フィールドワーク
- ＜企業と行政と関わり、自分でイニテシアティブを企画する＞
- ・探究インターンシップ

教科横断カリキュラム

- ・家庭×保健体育×公民福祉プログラム（5時間）
- ・農業×理科（生物）SDGs生物多様性（10時間）

学校設定教科

- ・「起業探究」起業探究 I

研究の成果発表・普及

普通科 地域探究学習発表会

普通科・産業技術科 未来フォーラム

＜2学年＞地域課題解決を図る

総合的な探究の時間

- ＜チームで地域探究を実施する＞
- ・ガイダンス
- ・フィールドワーク、課題解決
- ・研修旅行にて中間発表
- ・@立命館大学食マネジメント学部
- ・地域へフィールドバック
- *小・中学校のふるさと学習と合同で課題解決型学習の実施
- *産業技術科の課題研究と連携し、共同研究を実施するチームも

学校設定教科

- ・「起業探究」起業探究 II

＜3学年＞地域と自身の未来を考える

総合的な探究の時間

- ＜進路実現に向けた取り組み＞
- ・自己PRを作り上げ、プレゼン

選抜授業

- ＜専門分野に特化した課題解決＞（10時間）
- ・「フードデザイン」での実践
- ・「生活と福祉」での実践（35時間）

学校設定教科

- ・「起業探究」起業探究 II

おおなんドリーム 学びのつどい

小中高生の発表の場。12年間の学びの集大成で、1チームのみ発表する。

本事業終了後は、対象を普通科だけでなく、産業技術科へも拡大させ、普通科・産業技術科共通カリキュラムを作る

令和2年度時点での学校全体の生徒数

学科	1年	2年	3年	4年	合計
普通科	60名	42名	58名	0名	160名
産業技術科	33名	27名	26名	0名	86名
合計	93名	69名	84名	0名	246名

令和元年度時点での事業対象学科の生徒数

学科	1年	2年	3年	4年	計
普通科	60名	42名	58名	0名	160名
産業技術科	33名	27名	26名	0名	86名
合計	93名	69名	84名	0名	246名

I：総合的な探究の時間の再構築

1. 普通科「総合的な探究の時間」基本情報

- ・単位：1単位（年間35時間）＊3学年（1年生：60名、2年生：42名、3年生：58名）
- ・実施：月曜日7時間目（15:20～16:10）
- ・担当：クラス担任 / 企画：魅力化推進センター

2. 総合的な探究の時間の構成

本校普通科の「総合的な探究の時間」は、自身の進路を考え、決定する「進路探究」と、地域の課題や魅力を発見し、課題解決を行う「地域探究」の2つの側面を持っている。今後は進路探究と地域探究の融合が課題となるが、今年度は、昨年度までの内容を踏襲しつつ、内容の再構築を図った。

（1）3年間の流れ（計画段階）

本校生徒が、3年卒業段階で、「ふるさとを思い、地域の未来をつくる人」として成長するため、1年次の目標を「地域と自身を知る」、2年次の目標を「地域課題解決を図る」、3年次の目標を「地域と自身の未来を考える」とした。

1年目は、3学期にコース選択（2年次、3年次は「総合コース」、「探究コース」に分かれるため）があり、納得のいくコース選択を図るために、自身の将来（少なくとも卒業時の状態について）を考え、決定しておく必要がある。そこで、1学期は、進路探究や地域での探究、どちらにおいても必要となる基礎的なスキルを習得することを目標とし、問いの立て方や思考ツールの紹介、また教科横断するテーマを扱うことで、探究スキルの活用場面を作った。2学期は、大学見学訪問等の時期にも当てはまるため、自身の進路哲学を立てることを目標におき、進路に係るさまざまな視点（人生100年時代、お金について、労働問題等）を、探究スキルを使って考え、さらに地域の大人たちや卒業生の声を聞く機会、インターンシップなどを計画した。3学期は2年次に地域探究を行うことを前提に、課題解決を図る計画とした。

2年目は、コース問わず、全員が地域探究を行う。1学期にフィールドワークや地域の方々と関わり、課題の発見や魅力の再発見をし、それらを生かして地域での課題解決実践を行う。途中、立命館大学食マネジメント学部での研修旅行にて中間発表を行い、他視点からのフィードバックをさらに生かす。1～2学期にかけて行なった研究実践を、12月には普通科1年、2年を対象とした「課題解決型学習発表会」、1月には普通科・産業技術科の1～3年を対象（ただし、大学入試受験生は除く）とした「未来フォーラム」、2月には邑南町内の小学校、中学校、養護学校、町民を対象に学習発表を行う「おおなんドリーム学びのつどい」にて、研究内容を発表する機会を設けている。3学期には地域探究での学びを振り返り、自身の進路探究へ生かす。

3年目は、進路探究をより深め、地域探究や2年間の実績を、自己PRや志望動機等へ生かす機会を設けている。2学期では教員と生徒による機会を設け、進路を深く掘り下げていき、3学期以降は、邑南町からの「はばたき講座」として、邑南町の公民館と連携し、U・Iターンした若者との対話の場を設け、邑南町の未来を作る人材とは何かを探究する機会とする。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) のような計画を立案していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延により、計画の変更を余儀なくされた。特に、企画のねらいを考慮し、他の計画や学習進度を踏まえ、中止や代替可能であれば代替行なった。具体的には、以下のような対策を講じた。

学年	変更前	変更後
1 学年	○フィールドワーク	5 月に行政へのフィールドワークに予定していたが、休校期間となったことで中止となった。
	○インターンシップ	10 月にインターンシップ（病院や高齢者福祉施設などを想定）を検討していたが、受け入れが難しいと判断。そこで、インターンシップを中止し、地域や地域外の大人からその人の生き方を教えてもらう場を設けることにした。
2 学年	○フィールドワーク	7 月にバスに乗車し、地域の大人たちと関わる機会を設ける予定だったが、高校生が長時間バスに乗り続けることや感染拡大のリスクを考慮し、地域の大人たちに来校いただく／オンラインで話していただく機会へ変更した。
	○研修旅行	11 月に実施予定だったが、バスの移動や宿泊を伴うことでのリスクを考慮し、中止となった。その代わりに、オンラインでオープンキャンパスを企画する、中間発表を行うなどを行なった。
1、2 年	***	休校に入る前、「新型コロナウイルス感染症」をもとに、感染経路やインターネットやニュースなどで示される情報の正否について考える機会を作った。また、課題解決として、新型コロナウイルス感染症蔓延対策のための T シャツデザインを休校期間の課題とし、その後最優秀デザインを決定。最優秀デザインの T シャツは町内アパレル店にて限定 100 着販売を行い、売り上げは全て町内の社会福祉協議会へ寄付した。
3 学年	○地域の方々へのプレゼンの場	7 月に作った自己 PR や志望動機を地域の方々にはプレゼンする機会を予定していたが、長時間に大人数の生徒が地域に出ることのリスクを考慮し、中止とした。

中止や変更だけではなく、新型コロナウイルス感染症自体を教材と捉え、予定にはなかったが休校期間中の課題として、「新型コロナウイルス感染症蔓延対策 T シャツを考える」というものとし、課題解決について考える機会を作った（右写真）。



(3) 実施状況

令和2年度 普通科1年生 総合的な探究の時間

月	日	学習項目	学習内容
5	25	学びみらいPASS	自分のリテラシーやコンピテンシーを可視化する
5		学びみらいPASS	
6	1	「考える」を考える	質問づくりのトレーニング
6	8	5W1Hで考える	質問づくりのトレーニング
6		プチ探究	前時の調査する
6	15	プレーストーミング	プレストの手法を学ぶ
6	22	タイムマネジメント	目的達成の手法を学ぶ
7	16	未来の食卓を考える	食糧問題について考える
9	7	キャリアガイダンス	2年次のコースの違い、卒業後の大学・専門学校、就職等についての説明会
9		キャリアガイダンス	
9	14	邑南町基礎講座	邑南町の産業についての講話
9	15	オンラインオープンキャンパス	島根大学オンラインでオープンキャンパスを実施
9		オンラインオープンキャンパス	
9		オンラインオープンキャンパス	
10	12	「進路を考える」を考える	進路についての考え方を知る
10	19	お金と人生と自分の関係	幸せのためにお金はどの程度必要かを考える
10	26	人生100年時代を考える	100年時代の中での進路の考え方を知る
11	2	現代版アリとキリギリス	労働問題や福祉問題について考える
11	9	十人十色生き方講座①	地域内外の社会人から生き方を教えてもらう
11	16	十人十色生き方講座②	地域内外の社会人から生き方を教えてもらう
12	7	十人十色生き方講座③	地域内外の社会人から生き方を教えてもらう
12	14	十人十色生き方講座④	地域内外の社会人から生き方を教えてもらう
12	22	課題解決型学習発表会	2年生が取り組んだ課題解決型学習のプレゼンを聞き、評価する
12		課題解決型学習発表会	
12		課題解決型学習発表会	
12		課題解決型学習発表会	
1	27	未来フォーラム	普通科2年生、産業技術科3年生の取り組みプレゼンを聞き、評価する
1		未来フォーラム	
1		未来フォーラム	
1		未来フォーラム	
2	15	3年生 YELL プロジェクト	卒業生を気持ちよく送るための企画を考える
2	22	YELL プロジェクト準備	YELL プロジェクトの企画準備
3	8	1年間のふりかえり	1年間の成長をふりかえる
3	15	次年度に向けて	次年度の課題解決型学習のテーマを考える

令和2年度 普通科2年生 総合的な探究の時間

月	日	学習項目	学習内容
5	25	探究のテーマを決める	各チームが取り組むテーマを考える
6	11	情報収集	他のチームの情報やテーマに関する情報を収集し、地域への質問を考える
6		情報収集	
6	19	地域について教えてもらおう	対面もしくはオンラインで地域の情報について教えてもらう
6		地域について教えてもらおう	
6	22	集めた情報を共有しよう	チーム内で情報を共有する
7	6	企画書を作ろう	地域の課題解決のための一枚企画書をつくる
7	13	中・中間発表	各チームの企画を発表し合い、お互いフィードバックする
7		中・中間発表	
9	14	大学生との相談会	立命館大学の大学生と企画について検討、準備する
9		大学生との相談会	
10	19	企画を再検討しよう	考えきれていない部分について再検討する
10	26	企画を準備しよう	フィールドワークなど、企画準備を行う
10		企画を準備しよう	
10		企画を準備しよう	
11	9	発表準備をしよう	スライドやレポートなど発表準備する
11	16	企画や発表の準備をしよう	企画準備や発表準備を行う
11	19	オンラインキャンパスツアー	研修旅行で行う予定だった立命館大学のキャンパスツアーをオンラインで実施する
11		オンラインキャンパスツアー	
11		企画や発表の準備をしよう	企画準備や発表準備を行う
11		企画や発表の準備をしよう	
11	20	立命館大学中間発表会	研修旅行で行う予定だった立命館大学とオンライン接続し、成果発表を行う
11		立命館大学中間発表会	
11		立命館大学中間発表会	
12	14	発表の準備をしよう	発表準備を行う（原稿完成）
12	22	課題解決型学習発表会	普通科1年生、2年生、カリキュラム開発等専門家の前で、10分間のプレゼンを行い、互いに評価する
12		課題解決型学習発表会	
12		課題解決型学習発表会	
12		課題解決型学習発表会	
1	27	未来フォーラム	普通科2年生、産業技術科3年生の取り組みプレゼンを聞き（選抜されたチームはプレゼンする）、評価する
1		未来フォーラム	
1		未来フォーラム	
1		未来フォーラム	
2	15	1年間のふりかえり	1年間の取り組みを整理・成長を振り返る
2	22	YELLプロジェクト準備	1年生が企画した企画を準備する

令和2年度 普通科3年生 総合的な学習の時間

月	日	学習項目	学習内容
5	25	志望動機を考える	自身の進路志望を明確にする
6	1	ポートフォリオを振り返る	2年間を振り返り、取組を整理する
6	8	合格体験記を読み込む	合格体験記を読み、今後の計画を立てる
6	15	経験と志望動機をつなぐ	進路志望と自身の経験をつないで考える
6	22	タイムマネジメント	目的達成の手法を学ぶ
9	14	小論文の書き方講座	小論文の書き方を知る
9		小論文の書き方講座	小論文の書き方を知る
9	28	進路調査	自身の進路を明確にし、準備する
9	28	進路調査	自身の進路を明確にし、準備する
10	12	面接トレーニング	質問項目を整理し、進路志望を明確にする
10	19	面接トレーニング	質問項目を整理し、進路志望を明確にする
11	2	個別進路面談	進路について個別にフィードバック
11	9	個別進路面談	進路について個別にフィードバック
11	16	個別進路面談	進路について個別にフィードバック
12	7	個別進路面談	進路について個別にフィードバック
12	14	個別進路対策	進路について個別にフィードバック
12	21	個別進路対策	進路について個別にフィードバック
1	27	未来フォーラム	普通科2年生、産業技術科3年生の取り組み プレゼンを聞き、評価する
1		未来フォーラム	
1		未来フォーラム	
1		未来フォーラム	
2	10	羽ばたき講座①	邑南町にU・Iターンした30代前半までの若 者とトークセッション
2		羽ばたき講座①	
2		羽ばたき講座①	
2		羽ばたき講座①	
2	17	羽ばたき講座②	一人暮らしの食事の取り方や犯罪に合わない ための消費者行動についての講話
2		羽ばたき講座②	
2		羽ばたき講座②	
2		羽ばたき講座②	

・総合的な探究の時間（1年）

1. 1学期の取組

(1) 流れ

予定していたフィールドワークなどは中止し、校内でできる探究スキルの習得を企画立案した。「考える」ことを考える、というテーマで、「問いを立てる」「問いの優先順位をつける」「優先順位に従って、問いを解消する（調べる）」というプロセスを丁寧に行なった。この他、教科横断型の授業を実践（後述：「未来の食卓を考えよう！」）する他、初めての期末試験（新型コロナウイルス感染症によって、中間試験が実施できなかった）のための計画立案などをおこなった。

(2) 教材（ワークシート）

・課題：課題解決の“術”を体得し、新型コロナウイルス感染症を抑えよ！

総合的な探究の時間 **課題解決の“術”を体得し、新型コロナウイルス感染症を抑えよ！** 年 組 氏名

ミッション
【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の危険性を、お年寄りや子供たち、高齢者の人々に注意喚起するロゴやキャッチコピーを考えよ！】

（1）Tシャツにする条件を確認しよう

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の色覚感が伝わるコピーであること
- ロゴやキャッチコピーはおもて面のみ・色は2色までとする（価格を抑えるため）
- Tシャツの色は、白色とする
- お好みのロゴやキャッチコピーを使うのは任意です。著作権や肖像権は十分注意しましょう。

※お好みのTシャツ業者と手を組み、実際に商品化（税込100番）する。
※価格は1,200円とし、残り上げの一部は監修・監証受検者や教育関係者の寄付に回す予定。

ここに載せる、ロゴやキャッチコピーを考えよう

※参考動画
【「問い」「問い」を考えよう！】
https://www.youtube.com/watch?v=9G40K000000

自分のブランド屋さんも同じような取り組みを行っています。参考にしてみてください。
※著作権や肖像権には十分注意してください。

QRコード

＜考えるポイント＞
面白いアイデアを発想するため、「ブレインストーミング（ブレスト）」をしてみよう！

（2）ブレストで考えてみましょう！
ミッションにあるような「正解が一つに決まらない問い」について、最初から決めつけるのではなく、自由に考えてみましょう。その際に便利なのが方法の一つに、「ブレインストーミング（ブレスト）」というのがあります。

＜ブレストの注意＞
■正解はない！・・・考えたアイデアの中から一つを決めるので、正解を探さない！
■数量よりも質を大切に！・・・一気に20アイデアくらい出してから一つを決めるの！
■ウケが悪い意見から考え始める・・・まともなアイデアは捨ててくる覚悟で！

ブレストの表

＜ブレストの表＞

チェック項目	視点
① 新規性	想像力や新しい発想性があるか
② 話題性	新聞やテレビなどで話題になるか
③ 簡潔性	他にはない簡潔さがあるか
④ デザイン性	1,200円出しても良いと思えるか/著作権などに違反していないか
⑤ 実用性	売上高が伸びない可能性があるか
⑥ ブレスト数	ブレストしたかどうか

これら6項目に従って、審査委員会や審査し、最優秀賞を決める。 **※⑥：全数合格**

《備考》
事前授業（LHR）として、普通科/産業技術科含む、全てのクラスで、新型コロナウイルス感染症の正式名称や感染経路、注意事項などを伝達（町内医療関係者及び保健部と連携し内容を精査）。
本課題は、普通科1年生、2年生が実施。

品南町立食の学校特別学習 **新型コロナウイルス対策ワークシート**

1. 「新型コロナウイルスって何？」

正式名称

正式ウイルス名

2. 「どうやって感染するの？」

新型コロナウイルスは、3つの感染経路で感染します。

直接感染【密い接触】
密に接する
（距離20cm以内）

飛沫感染【密い接触】
咳やくしゃみなどが
飛び交う
（距離20cm以内）

間接感染【密い接触】
感染者の唾液や鼻汁が
ドアノブや手すりなどに付着し、
そこから感染する

3. 「どうやって防ぐの？」

感染経路【密い接触】	感染経路【密い接触】	感染経路【密い接触】	感染経路【密い接触】
密に接するのを避ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける
咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける
咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける
咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける	咳やくしゃみが出たらマスクを着ける

3. 「気を付けてほしいこと」

もしかしらみんなは「密着」が怖い！

でも・・・

3つの「密」を避けましょう！

① 換気の悪い密閉空間
② 多数が集まる密集場所
③ 間近で会話や発声をする密接場面

密閉空間 X 密集場所 X 密接場面 X

密閉空間【密い接触】
換気が悪い密閉空間

密集場所【密い接触】
多数が集まる密集場所

密接場面【密い接触】
間近で会話や発声をする密接場面

4. 「どうやって防ぐの？」

※ミッション お家の人が新型コロナウイルスに感染しないためのポスターを作ろう！

「密着」や「密」にも危険性がある！
だけど、一切触れないということは難しい。
だからこそ、「半密い」「半密い」が大敵！
密着を避けたら、「半密い」「半密い」が怖い！
密着を避けたら、「半密い」「半密い」が怖い！

ぜひ、密着の半密い半密いも実践しよう！
また、目や口、鼻に触れないようにしよう！

・授業3：プチ探究をしよう！～KWLで考える～

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="font-size: small;">総合的な探究の時間 プチ探究をしよう！～KWLで考える～ 年 組 氏名</p> <p>疑問・疑問マトリックスで出してもらった課題を探究してみよう！ 探究をする時に、「まあ、ターゲットを聞こう！」とする前に、一体自分は何を調べべきかを明確にしたいと思います。 ここでは、情報と問はれるシンキングツールを使って、自分が既に知っていることや知りたいと聞いていることを整理し、「調べるべき内容」を明らかにしていきます。</p> <p>(1) 疑問・疑問マトリックスから「おもしろそう」「もっと知りたい」と思ったものから一つ調べてみたい問いを書いてみよう</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div> <p>まっこの問いについて、みんなが知っていることもあるはず。 まずは、知っていることを出発点に、今後どんなことを知りたいのか、を明確にしよう</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;"> K What I know 知っていること </td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;"> W What I want to know 知りたいこと </td> <td style="width: 33%; text-align: center; padding: 5px;"> L What I learn わかったこと </td> </tr> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle; padding: 5px;"> KとWが書けたら、情報収集をしましょう </td> <td style="height: 150px;"></td> </tr> </table> </div>	K What I know 知っていること	W What I want to know 知りたいこと	L What I learn わかったこと		KとWが書けたら、情報収集をしましょう		<p>《備考》</p> <p>自ら立てた問いをただ調べるのではなく、知っていることやわかったことなどを整理するため、思考ツール：KWLを用い、図書館にて調査を行った。</p>
K What I know 知っていること	W What I want to know 知りたいこと	L What I learn わかったこと					
	KとWが書けたら、情報収集をしましょう						

2. 2学期の取組

(1) 流れ

普通科1年生 60名が町内に出向き、密状態を作ること自粛し、インターンシップを断念した。その代わり、労働の光と影として、夢追い型のキャリア教育（邑南町では、平成29年度より中学3年生と高校1年生が中高合同で、法政大学キャリアデザイン学部の児美川孝一郎氏による講演会を聞き、「夢追い型」ではないキャリアについて考える機会を設けている）ではなく、労働問題や人生100年時代（65歳からのライフプランなど）もテーマとして扱い、「進路=どのような仕事をしたいか」とならない工夫をとった。さらに、「十人十色の生き方講座」を4回実施し、各回で地域の方や卒業生等に話していただく（合計、13名）ことで、「地域で暮らす意味」や「人生山あり谷あり」といった、自分の人生を考えるきっかけとした。この他、邑南町の産業についての説明（邑南町役場商工観光課プレゼン）、進路に関係する教科横断型の授業を实践（後述：「現代版アリとキリギリスロールプレイ」）する他、2年生が行なった「地域課題解決型学習発表会」にて審査を行なった。

(2) 教材 (ワークシート)

・授業4: 「進路を考える」を考える

総合的な探求の時間	年 組 氏 名
<p style="text-align: center;">「進路を考える」を考える</p> <p>自分の進路をどのように決めていくのか、ということについては明確な答えは多くありません(つまり、好きな進路でいい)。一方、「どう進んでいいかわからない」という声も聞きます。2学期のゴールは、「自分なりの進路哲学」を持つことです。「進路決定」ではありません。様々な進路選択の社会的な背景の声を聞きながら、正解がない中で進んでいく中で、自分なりに回答を作っていきます。</p> <p>(準備ワーク) 「進路」についての疑問、気になっていること、知りたいことを書いてみよう!</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>(1) ロール・プレイング・ゲーム (RPG) では、「職業」システムを設けているものがあります。4人パーティの中で、あなたの次の4つの職業の中から1つを選びますか?</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 騎士 騎士は、勇ましい騎士の道徳を重んじて、正義を成すことを使命とする。物陰に隠れて活動するのではなく、堂々と立ち回ることが得意で、仲間を守りながら進みます。</p> <p>② 魔法使い 魔法使いは、魔法の力を駆使して、遠くから敵を倒すことが得意。魔法の力で仲間を助けることもできる。魔法の力で仲間を倒すこともできる。</p> <p>③ 僧侶 僧侶は、平和の道徳を重んじて、仲間を助けることを使命とする。魔法の力で仲間を助けることもできる。魔法の力で仲間を倒すこともできる。</p> <p>④ 武闘家 武闘家は、力強い道徳を重んじて、仲間を助けることを使命とする。魔法の力で仲間を助けることもできる。魔法の力で仲間を倒すこともできる。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>わたしは、 _____ を希望(に)する。 _____ 選んだ理由は?</p> </div> </div> <p>キーワードに関連がありそうな職業にはどのようなものがあるだろうか? 【プレイド】欄で考える ▶ ページで考える</p> <p>(4) 今回は、他国的に「職業」という言葉を使って「進路」について考えましたが、果たして「進路決定」とは「職業決定」のことなのでしょうか。 個人やペアで意見を書いてみよう。</p> <p>(5) 本日の授業で、学んだことや感想、気づきを書いてみよう。</p>	<p>《備考》</p> <p>そもそも進路を考えるとは、どのように考えることかについて可視化した。</p> <p>参考資料として、「しあわせに働ける社会へ」(岩波ジュニア新書) 竹信三恵子 (2012年) を抜粋し、夢が叶わなかった場合についてをイメージさせた。</p>

・授業5: お金と人生と自分の関係を考えよう～幸せな生き方とは?～

総合的な探求の時間	年 組 氏 名		
<p style="text-align: center;">お金と人生と自分の関係を考えよう～幸せな生き方とは?～</p> <p>仕事を考える上で、「やりたいこと」と「しっかり考えることは重要ですが、自分が希望する仕事に就くことが進路を考える側面でもあるでしょう。一方で、「お金」の側面も重要です。「進路」は「進む路(みち)」と書きます。「みち」というからには、どこに向かって歩いていくものなのでしょう。そのゴールはどこなのか、を考えてみましょう。</p> <p>(1) 現在どのような社会的な考え方をとめているか ～1990年代(バブル崩壊まで) 2000年代～(特に東日本大震災以降)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 社会 _____ 特徴 _____ _____がある </td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 社会 _____ 特徴 _____がない </td> </tr> </table> <p>(2) 切っても切り離せない「お金」の問題について考えてみよう (ここからは自分の価値観を正直に考えてみてください。誰からも否定されません!)</p> <p>○あなたは、お金持ちになりたいですか? (YES + NO)</p> <p>○1万円あったら、何を買いますか? _____</p> <p>○100万円あったら、何を買いますか? _____</p> <p>○1000万円あったら、何を買いますか? _____</p> <p>○お金で買えないものをあげてみよう _____</p> <p>(3) 理想の生き方から、24時間の使い方を考えてみよう</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-left: 10px;"> <p>(条件や考えるヒント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○24時間 ○労働時間+生活時間+余暇時間とします。 ○「生活時間」は取りましよう。(食糧、食料、入浴など) ○「労働時間」の目安 ○公務員や会社員 (8:30-17:30) です。(12時から1時間程度休憩時間) ○職業によっては強制的に人が死ぬ命があります。 ○教員は、先延ばしをまじやう。 ○自営的な場合は、自分で決めることができます。 ○労働時間が長いと給料が低くなる傾向がありますが、長時間労働は身体に負担があります。 ○通勤時間などは、住んでいる地域や働く場所によって変わります。 ○生活時間と労働時間以外の時間を「余暇時間」と言います。 </div> </div> <p>「ワーク・ライフ・バランス」を、「時間」だけで考えろ。 「労働時間(ワーク)」と「生活時間+余暇時間(ライフ)」のバランスであり、その時間をどのように過ごすのかという問題になります。これを正確に把握し、いくらか収入が少なくなるといって、自分がより収入だと思え、多様な考え方があります。自分にとって納得し、幸せと思える生き方をしてみてください。</p> <p>(4) 本日の授業を踏まえて、進路について新しく考えてみたいことを書いてみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>(5) 本日の授業で、学んだことや感想、気づきを書いてみよう。</p>	社会 _____ 特徴 _____ _____がある	社会 _____ 特徴 _____がない	<p>《備考》</p> <p>自分が幸せに生きていくためには、お金はどのくらい必要なのかに直視させ、理想の24時間を想像することで、進路を考える上での、自分の目的(何のために働くのか)について考える機会を持った。</p> <p>参考資料として、東洋経済オンライン (2020年1月4日) より、声優の経済事情についてのインタビュー記事を提示している。</p>
社会 _____ 特徴 _____ _____がある	社会 _____ 特徴 _____がない		

・授業6：人生100年時代を考える～人生は、9回裏までである～

総合的な探究の時間

人生100年時代を考える～人生は、9回裏までである～

年 組 氏名

皆さんはおそらく、これまでの人生の中で「夢はなんに?」「何になりたいの?」と問われたことは数多くあるでしょう。でも、思いませんでしたか?「いつのことを言っているの?」。無条件で決まってしまう夢なのか、それとも自分の夢なのか。はたまた時代の状況の変化によって考え方は変わってきます。時代や状況によっても変わっていくものであるからこそ、自分の中で「進路哲学」を養っていきましょう。

(1) 日本の平均寿命のグラフを見てわかることを整理しよう

○気づいたこと (不思議だと思ったこと、疑問に思ったこと) を書いてみよう

(2) 高齢者が抱える労働問題についての記事を読んでみよう。『毎日新聞』「目そらさないで『「生涯現役」の先に』の記事より一部抜粋

○自分が人生を考えるために、本誌に載った記事はありますか? 自分の意見を書いてみよう

(3) 人生は、9回裏までであると考えよう!

区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区
年齢	0-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
区									
区									

○人生の「3つのステージ」がかつてはあった

しかし、人生100年時代では、引退後に「仕事」とはほぼ関わらない時間を過ごすことになる。また、「3つのステージ」は崩れ、二つや三つのキャリアを持つようになったり、引退後の人生を豊かにするために、会社以外の「人的ネットワーク」を形成する必要があるかもしれない。【LIFE SHIFT (ライフ・シフト)】より

(4) 6回裏から、どのようなゲーム運びをしていくか、そのために、いつ、どんなことに取り組むべきか、をプレストしてみよう。

(個人や個人)

(他(人)の意見)

(5) 本日の授業で、学んだことや感想、気づきを書いてみましょう。

《備考》

「人生100年時代」を聞いたことがあるが、100歳の自分について考えたことがない生徒がほとんどである。そこで、100年を野球でいう9回裏まであると考え、65歳引退後からの人生について考えるきっかけを与えた。

参考資料として、「里山資本主義日本経済は「安心の原理」で動く」藻谷浩介・NHK 広島取材班著、角川 one テーマ 21 (2013年) を提示した

「人生は9回裏までである」という考え方は、里山資本主義著者の藻谷浩介氏による講演を参考にした。藻谷氏は、邑南町のアドバイザーでもあり、教材化についても了承を得ている。

・授業7～11：十人十色の大人たちによる生き方講座

総合的な探究の時間

十人十色の大人たちによる生き方講座 (月 日)

年 組 氏名

これまで、「『進路を考える』を考える」「お金と人生の関係」「目標の24時間」「人生100年時代」「現代版アリエとキリギリス」をテーマに、進路哲学を持つために必要だとと思われることを考えてきました。では、大人たちはどのように進路について考えているのでしょうか。大人たちからこれまでの人生を教えてもらい、進路を決めていくために必要な要素を考えていきましょう。

第1セッション担当者

自分にとって大事だと思った言葉やキーワードをMEMOしよう。

第2セッション担当者

自分にとって大事なと思った言葉やキーワードをMEMOしよう。

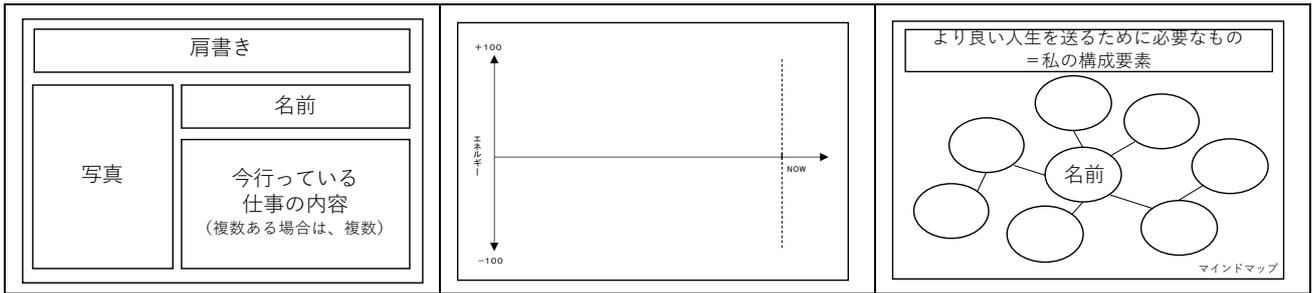
○第1セッションの感想をお願いします。

○第2セッションの感想をお願いします。

《備考》

進路は決してどんな職業につきたいかを考えるだけではないという状態で、「では、大人たちはどのように考えているのか」という疑問に答えるべく、4回合計8人(各回で2人の大人の話聞く)から人生について教えてもらう機会を作った。

・スライド 講師に用意いただいたスライドは、次の3枚のスライドで統一させた



・講師

日付	話者の所属等
11月9日(月)	地域団体所属者、高校野球監督(元プロ野球選手)、地域建設業者
11月16日(月)	お笑い芸人、ドクトレーナー、看護師/大学教員(関西圏)
12月7日(月)	公務員(邑南町役場)、病院看護師、アーティスト専門鍼灸師
12月14日(月)	国際ボランティア団体(2名)、飲食店店長、作業療法士、養護学校校長
合計	14名



3. 3学期の取組

(1) 流れ

3学期は、2年生への助走としての位置づけではあるが、新型コロナウイルス感染症の関係で、今年度も卒業式で在校生が出席できないことが判明した。卒業式という学校行事の教育的価値が損なわれると判断し、総合的な探究の時間を活用し、卒業式に出席できなくても送別するための取組（YELL プロジェクト）を考え、2年生や産業技術科を巻き込み、実行した。その過程で、課題解決に必要な視点を獲得してもらい、次年度へ生かす。

(2) 教材（ワークシート）

・授業 12：探究チュートリアル ～3年生へ送ろう、YELL プロジェクト～

総合的な探究の時間 **探究チュートリアル ～3年生へ送ろう、YELLプロジェクト～** 年 組 番 氏 名

●ミッション
在校生全体で、3年生にYELL（エール）を送るプロジェクトを実行せよ！

条件
①サブライズ企画のため、3年生には内覧をお願いします。
②こっそり3年生に会う、というのはNGです。
事前にみんなで作成して、当日3年生にお披露出する、というものです。
③産業技術科のみんなも巻き込める（誰も置き去りにしない）ものにしよう。

(1) YELLプロジェクトはどのような課題解決なのか、確認しよう

(2) YELLプロジェクト達成のための考え方（個人ワークとグループワーク）

ア) アイディアをブレスト（ブレインストーミング）しよう！
「ブレストのルール」
・どんな意見も否定しない（あり得そうもない意見を尊重する）
・一人1回以上発言する（誰を大膽にする）
・楽しくチャレンジする（笑いながら、拍手しながら、盛り上げながら）

イ) 「やりたいこと・やるべきこと・やれること」を整理してみよう！

ウ) 優先順位をつけてみよう！

1
2
3

みんなには、習熟度や生活という方違い、学年や学科を超えた仲間達がいるはず。予定を確約することはもちろんですが、余裕を巻き込むお断りをしてほしいのではないだろうか。あまり時間がないかもしれませんが、みなさんが出してくれた解決策案（ウ）をもとに、何をやるかを考えてみようと思います。特に急ぎ「実行」してみた方がいいと思うことがあったら、小隊まで、また、面白いアイデアを出してくれた人にも声をかけるかもしれません。

《備考》
探究学習のチュートリアルとして、「あるべき理想の姿」「現状」「課題」を設定し、その解決策としてYELLプロジェクトがあることを意識させた。また、プロジェクトの実行の時には、「WILL（やりたいこと）」「CAN（やれること）」「MUST（やるべきこと）」の3つの重複する部分を選択することも伝えている。

・授業 13：ふりかえり

総合的な探究の時間 **1年間のふりかえり～1年間のエネルギーカーブを描こう～** 年 組 番 氏 名

高校1年間はどうか？最初立てた目標は達成できたでしょうか。うまくいったこと、うまくいかなかったこと、それだけではありません。令和3年度を振り返り、1年間の振り返り、自分の成長を振り返りましょう。

(1) 1年間のふりかえり、エネルギーカーブを描こう

(2) カーブを描いて気付いた、自分の価値観を整理しよう

自分のエネルギーが高くなるための必要なことは、……

自分の価値観を整理できて、改めて、どんなことにチャレンジしてみたいか

《備考》
「1年間のふりかえり」では、「十人十色の生き方講座」において、講師がプレゼンした「人生のエネルギーマップ」を参考にしている。1年間で自分のモチベーションが上がった／下がった原因をふりかえり、自分の価値観を再確認、次年度チャレンジしたいことを考える内容にしている。

・総合的な探究の時間（2年）

1. 年間の取組

(1) 流れ

2年次は、6月から12月までの5ヶ月を通じて地域課題解決型学習を実施した。新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、予定していたフィールドワークや地域住民との協働は行えなかったものの、オンラインでの対応や少人数での実施など、自らが行動し変革を起こすチームが出てきた。

(2) 教材（ワークシート）

・授業1：With コロナ、After コロナの時代の地域課題解決とは？

総合的な探究の時間 With コロナ、Afterコロナの時代の地域課題解決とは？

【「シヤツのデザイン」、たくさん授業してくれてありがとうございます。早くお帰りのちろろと「論」を演じてくれたらいい。とても興味深かった。8月に寄る発表会を聞き、課題を決ましようと思っておりますので、しばらくお待ちください。】

●チームで取り組んでみたいテーマと内容を書いてみよう

① 3つの探究のテーマ

② ③

3つの型	①地域型	②SDGs型	③産技科連携型
チャレンジ	昨年度の地区別戦略の取り組みを基ながら、関わってみたい地域を選んでみよう	昨年度の未来フォーラムの内容を基ながら、継続したい（新しく始めたい）ものを選んでみよう	【農業・畜産・工業】で取り組みたいなど、思うことを考えてみよう
メモ	いろいろ考えてみよう		
参考資料	別紙参照	昨年度の内容については下記通り 川の水をきれいにするには - オオサンショウウオを増やすには - 矢張り「自然」によると動物で能力あり - 私は水をどう利用したいのか - 環境に良いせっけん作り - 畜産の発展を促そう！ - 発展を促そう - 川の水を飲めるきれいな水にするには - 動物を増やそう - 私たちの町の土壌について - ほっこりする食糧 - 体温を下げよう - 地域発展と畜産の未来 - 川の汚染を防ぐ - 川の質を改善 - 資源を有効活用した水の循環	- 畜産事業 - 畜産中プロジェクト などが展開して取り組まれているが、詳しくは、2年生産業技術科の先生や先生に聞くのがよい。

《備考》

①地域型②SDGs型③産業技術科連携型の3つの中からチームで選択する方法をとった。地域型の参考として、邑南町地域みらい課が実施している「地区別戦略事業」の報告書をもとに、興味があることを列挙してもらった。SDGs型は、令和元年度に実施した探究学習の引き継ぎとして設定した。また、学科横断のプロジェクトも良いとして、邑南野菜の取組や石見和牛の取組を紹介した。

SDGs型の参考資料

ブース内容	発表者
1 川の水をきれいにするには	上田東人、柳井次朗、下郷このみ、陸谷高純
2 オオサンショウウオを増やすには	長谷川純、横原寛治、東原裕輝
3 矢張り「自然」によると動物で能力あり	高橋健行、南原志穂、野上以佳、日野原未蓮、石塚、島田真由
4 私は水をどう利用したいのか	宮本真一
5 環境に良いせっけん作り	山崎菜々、植田紗弥、森田白葉
6 畜産の発展を促そう！	外山由希、藤本花、田中実登、山崎水々
7 発展を促そう	三上航貴、土佐悠妃人、日高真希、石橋康平、上田かりん
8 川の水を飲めるきれいな水にするには	元木謙、田中真由、野田美子、森田すみれ
9 動物を増やそう	形川太輔、大塚海斗、三浦千梨
10 私たちの町の土壌について	松原悠希、田中舞美
11 ほっこりする食糧	新藤悠貴、新川舞夏、笠原分那
12 体温を下げよう	菊田祥哉、寺本美花、日野心風、山口純人
13 地域発展と畜産の未来	神田博康、前川東夏、白須瑠那、赤藤寛実、寺本優佳
14 川の汚染を防ぐ	竹光輝、石塚孝志、三浦ちづ、長山智恵
15 川の質を改善	福原まいる、石田智也、大塚唯真、梅本一輝
16 資源を有効活用した水の循環	小形拓海、高橋共他、乙野愛紗

昨年度の未来フォーラムで参考にされたイメージ図

*裏面には、昨年度の内容を紹介している

・授業3：地域の方々から話を聞こう！

<p>総合的な探求の視点 地域の方々から話を聞こう！ 年 組 氏名</p> <p>今回のKWLシートを活用しながら、知りたい情報を聞き出す。地域が決まっている人は、その地域の話を聞きに行こう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>地区名</th> <th>会場</th> <th>形態</th> </tr> <tr> <td>出羽</td> <td>2-1</td> <td>WEB会議</td> </tr> <tr> <td>高森</td> <td>2-2</td> <td>WEB会議</td> </tr> <tr> <td>日置</td> <td>図書館</td> <td>WEB会議</td> </tr> <tr> <td>矢上</td> <td>矢上公民館</td> <td>対面（訪問）</td> </tr> <tr> <td>井原</td> <td>図書館</td> <td>対面（来校いただきます）</td> </tr> </table> <p>「関心区」や「他家技術科との連携」に取り組みたいと考えている方も、地域の方々の話を聞きに行こう。 もしもしたら、校に立つ複製を撮ることができるともありません。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>場所</th> </tr> <tr> <td>15:20～15:30</td> <td>移動</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>15:30～16:00</td> <td>インタビュー</td> <td>各場所</td> </tr> <tr> <td>16:00～16:10</td> <td>情報共有</td> <td>自教室</td> </tr> </table> <p>＜地域をみる視点のヒント＞</p> <p>私たちは、しばしば「何ができるか」というコンテキストに注目しがちです。先入観に囚わせず、広く、地域をみるために、次の4つの視点から考えてみましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>地学</p> <p>地形、地質、地理、山、海、川など</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>気象</p> <p>天気、日照時間、風、降雪量、降水量、気温、気圧など</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>動植物</p> <p>動物、植物、鳥、魚、昆虫など</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>人間社会</p> <p>建物、文化、祭り、物、生活文化、人、家族、産業 など</p> </div> </div> <p>私たちが暮らす地域には、山や川、工場などの自然環境があり、そこに、強く風や雨が降り、その環境に適応できた植物や動物が生きています。そこに食糧や安全を求めた人々が暮らすようになり、社会・文化が生まれ、現在の形になっています。</p> <p>現在の私たちの暮らしは、元々は自然環境、植物、動物からの恵みで暮らして成り立っています。</p> <p>少子高齢化といった課題についても、この4つの視点を踏まえて考えなければ、解決が生じることになるでしょう。（例えば高齢者でパソコンがなければいいといった意見はなかなか持続可能ではないでしょう）</p> <p style="font-size: small;">※ここで共有できるように、メモをしっかりと取りとめておこう</p>	地区名	会場	形態	出羽	2-1	WEB会議	高森	2-2	WEB会議	日置	図書館	WEB会議	矢上	矢上公民館	対面（訪問）	井原	図書館	対面（来校いただきます）	時間	内容	場所	15:20～15:30	移動	—	15:30～16:00	インタビュー	各場所	16:00～16:10	情報共有	自教室	<p>《備考》</p> <p>本来はフィールドワークを実施し、地域の情報を知る機会だったが、前述の通り、オンラインや来校いただく形でインタビューを行なった。また、近隣の公民館も使用し、三密を避けながら、情報獲得を行なった。</p>
地区名	会場	形態																													
出羽	2-1	WEB会議																													
高森	2-2	WEB会議																													
日置	図書館	WEB会議																													
矢上	矢上公民館	対面（訪問）																													
井原	図書館	対面（来校いただきます）																													
時間	内容	場所																													
15:20～15:30	移動	—																													
15:30～16:00	インタビュー	各場所																													
16:00～16:10	情報共有	自教室																													

・授業4：地域の方々から聞いた情報を整理し、何をするか考えよう！

<p>総合的な探求の視点 地域の方々から聞いた情報を整理し、何をするか考えよう！ 年 組 氏名</p> <p>(1) 先日聞いた情報を共有し、整理して、何に取り組むかを考えてみよう！</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p>(2) 自分たちが行いたいプロジェクトのゴール「誰に、どんな価値を提供したいか」を書いておこう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>誰に（どんなことに困っている人）</th> <th>どんな価値を提供したいか（楽しんでほしいのか）</th> </tr> <tr> <td style="height: 30px;"></td> <td></td> </tr> </table> <p>●嬉しい人は、「こんなことをしたい」というアイデアを書いてみよう</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>(3) 課題終了後、(2)のために、7月の間に行いたいこと（To Doリストの作成）を書いておこう。 ※書いてもらったことを踏まえて、授業の時間を増やすなどの調整を行います。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>何をやる／何をしたい？</th> <th>誰が</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td></tr> </tbody> </table>	誰に（どんなことに困っている人）	どんな価値を提供したいか（楽しんでほしいのか）			何をやる／何をしたい？	誰が	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		<p>《備考》</p> <p>前授業で獲得した情報をもとに、改めてプロジェクトのゴールを決めてもらい、準備として何ができるかを考えてもらった。特に、夏休みの計画について話し合っ決めてもらった。</p>
誰に（どんなことに困っている人）	どんな価値を提供したいか（楽しんでほしいのか）																										
何をやる／何をしたい？	誰が																										
1																											
2																											
3																											
4																											
5																											
6																											
7																											
8																											
9																											
10																											

・授業5：企画書（修正案）を作ろう！

総合的な研究の計画 企画書（修正案）を作ろう！ 期：チームメンバー

①企画書タイトル

例) ①高齢者はスーパーがなくて困っているし、賑わいが無い(課題)
②賑わいを取り戻し、笑顔があふれる街にしたい(理想)
③理想状態にするため、自分たちは高校生スーパーを企画する(企画) という論理です

②現状・課題

③理想状態（課題解決した後の理想状態）

④企画内容

いつ	
どこで	
誰を対象に	
何を	

⑤企画実行のための準備

- ・9月の予定
- ・10月の予定
- ・11月の予定
プレゼン準備
大学でのプレゼン

・新型コロナウイルス感染症対策

《備考》

情報を整理し、一枚企画書を作成した。現状やゴール、課題解決のためのアクション、そのための準備などを考えてもらった。

この企画書をもとに、立命館大学の大学生や教授からフィードバックをもらった。

・授業6：再確認！プロジェクトの重要ポイント！

総合的な研究の計画 再確認！プロジェクトの重要ポイント！ *各チーム1枚です 期：チームメンバー

○常に確認すべき4つのポイント

現状	現状どうなっているか
理想	どうありたいか/どうあってほしいか
ギャップ	理想に至っていないのはなぜか 何が問題なのか
アクション(企画)	ギャップを埋めるために何ができるか

○プロジェクトの進み具合
今、自分のチームほどの段階？

現状把握 → 理想状態の設定
ギャップの把握(現状分析) → アクション(企画)実施 → 振り返り
アクションの検証

まとめ
伝えたいこと

発表

○今後のスケジュール

いつ？	
何を？	
どこで？	
誰と？	

*裏面はカレンダーになっています
今後の予定を書き込んでください！

《備考》

中間審査を経て、プロジェクトの現状を把握するため、今後の流れやスケジュール確認を行なっている。

この後は、各チームの進捗具合によって土日に地域で実践する、地域に出向き再度インタビューや動画撮影を行うチームがいた。

・その他資料：総合的な探究の時間 発表様式について

総合的な探究の時間 発表様式について

1. 発表資料について

①レポート（ワード）

②プレゼンテーション（パワーポイント） の2種類を作ってください。
Google Document を利用し、PC・スマホ・タブレットで編集可能です。

①レポート（ワード）

- ・「～です」ではなく、「である調」で書くこと。「～だった。」や「～した。」など
- ・以下の項目を必ず書くこと。なお、以下の項目以外にあれば新しく項目を作り書くこと。
- ・必要に応じてエクセルでグラフを作成し、ワードに貼り付けをする。
- ・フォントサイズ：10.5ポイント/用紙サイズ：A4

●研究タイトル

●メンバー集合写真・メンバー・担当教員名・ご協力いただいた方々

- はじめに
 - ＊フィールドワークした地域の情報や研究動機を記載する
- 研究課題
 - ＊フィールドワークを通じて感じた課題や課題解決のために何をしようと考えたのかを記載する
- 研究経過
 - ＊表を作成し、わかりやすくすること
- 研究内容
 - ＊実施したことや企画内容を記載する。
 - 長くなってもいいので、アンケート結果などをグラフなどで表示する。
 - ＊研究内容が複数ある場合は以下のようにする
- 研究内容
 - (1)・・・
 - (2)・・・
- 考察
 - ＊研究によって明らかになったことを示す。課題解決できたかどうか記す
- 今後の課題
 - ＊やってみてできなかったことや考察によって見えてきた課題を明確にする
- おわりに
 - ＊感想などを記載する

●活動の様子（写真と説明）

②プレゼンテーション（パワーポイント）

スライドは、レポートの内容に促しながら、下記のことを参考に作成すること。

研究タイトル 集合写真 メンバー（サルネーム）	1. はじめに 箇条書きで記入する	2. 研究課題 シンプルで わかりやすく	3. 研究経過 表を使い わかりやすく
4. 研究内容 (1)・・・ (2)・・・	5. 考察 図表や写真等を 活用し説明する	6. 今後の課題 次年度を見越した 計画を発表する	7. おわりに 感想を述べる

伝えることが目的になってはいけません。伝えることが目的になります。
レポートを読み込めば良いのですが、時間が限られているので、うまくまとめて、伝えるために必要な書き方や見せ方に注意しましょう。

・その他資料：課題解決型学習発表会 評価シート

課題解決型学習発表会 評価シート

下記の評価シートに基づいて、点数をつけてください。

項目		配点	1	2	3	4	5	6	7	8
発表内容 (30点)	持続的・安定的な地域(学校)環境や地域創造に配慮した内容、または地域(学校)の課題解決に繋がる内容となっているか	10点								
	発表内容は精選され、成果は論理的・客観的に検討されているか	10点								
	意見が具体的に説得力があり、建設的であるか	10点								
		小計								
発表方法 (30点)	発表方法や態度は適切であったか(発表中の特別なパフォーマンスを評価するものではない)	5点								
	意見は分かりやすく、聞き手によく理解されたか	15点								
	質疑に対して、適切な回答ができていないか	10点								
		小計								
		合計								

○最も得点が高いチームを記入してください。

番号

MEMO

発表を聞いて、自分が感じたことや学んだことを書いておこう！

発表タイトル	コメント
1. 出羽の魅力再発見のために	
2. おいでよ 吾木の森公園	
3. 赤心館を魅力的にしよう	
4. バリアフリーを目指して	
5. 本来の自然を取り戻そう	
6. 空き家を使って物々交換！	
7. 日置×西条ドリームプロジェクト	
8. 恵食万命 ーフードロス削減への第1歩ー	

全体

年	組	番号	名前
---	---	----	----

産業技術科の「課題研究発表会」や「農業クラブ発表会」で用いられる評価と同じ形式である。

・その他資料：フィールドワーク時のワークシート

FIELD NOTE		年 期 名 前			
日 付:	活動場所:				
関わった人					
●メモ：フィールドワークで感じたことやインスピレーションしたことをメモしよう					
●感想：気づいたこと／不思議に思ったこと／困っていること など					
●次回、何をしようと思ったか					
★自己評価【1〜5まであったら1〜5まで記入してください。5〜10まであったら1〜5まで記入してください。】					
① 積極的に取り組むことができたか	1	2	3	4	5
② 地域の人と自分の考えを伝えたり、表現したりできたか					
③ 地域の人とコミュニケーションをとることができたか					
④ 日グループの今後の活動につながるような話し合いができたか					

※注：内容及び提出状況によって、授業の評価を行うため、最終的に提出すること。

・授業7：1年間のふりかえり～やってきたことを整理しよう～

総合的な探究の時間		1年間のふりかえり～やってきたことを整理しよう～		年 組 氏 名													
<p>1年間、地域や他校関係の課題に注目し、課題解決のための実践を行ってきました。探究の終わりは、自分で決めるもので、これから先の人生で取り進んでも構いませんが、授業時間として行うのは、これで終わりです。お疲れ様でした。</p>																	
<p>【本日行うこと】</p> <p>1. やって来たことを振り返り、学びを整理しよう (2. お世話になった人にお礼状を書こう)</p>																	
<p>(1) 「やって来たことを振り返る」とは</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 研究内容について</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 《過程》なぜ、いつ、どこで、だれが、なにをしたのか 《結果》研究によって、どうなったか(目的は達成したか) プレゼンやレポートの内容をベースに、研究内容を簡単に述べることでできるようにしよう。 </td> </tr> <tr> <td>2. 自分の変化について</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 《役割》研究では、自分は何を担い、何をやったのか 《学び》探究活動で、何を学んだのか。どうしたいと思ったか リークシートに基づいて、さまざまな場面から自分について振り返ってみよう(※これを「内省する」といいます) </td> </tr> </tbody> </table>						項目	詳細	1. 研究内容について	<ul style="list-style-type: none"> 《過程》なぜ、いつ、どこで、だれが、なにをしたのか 《結果》研究によって、どうなったか(目的は達成したか) プレゼンやレポートの内容をベースに、研究内容を簡単に述べることでできるようにしよう。	2. 自分の変化について	<ul style="list-style-type: none"> 《役割》研究では、自分は何を担い、何をやったのか 《学び》探究活動で、何を学んだのか。どうしたいと思ったか リークシートに基づいて、さまざまな場面から自分について振り返ってみよう(※これを「内省する」といいます)						
項目	詳細																
1. 研究内容について	<ul style="list-style-type: none"> 《過程》なぜ、いつ、どこで、だれが、なにをしたのか 《結果》研究によって、どうなったか(目的は達成したか) プレゼンやレポートの内容をベースに、研究内容を簡単に述べることでできるようにしよう。																
2. 自分の変化について	<ul style="list-style-type: none"> 《役割》研究では、自分は何を担い、何をやったのか 《学び》探究活動で、何を学んだのか。どうしたいと思ったか リークシートに基づいて、さまざまな場面から自分について振り返ってみよう(※これを「内省する」といいます)																
<p>(2) 研究内容についてまとめてみよう(グループで確認してもOKです！)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>《なぜ》なぜ研究したの？(動機や目的)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《いつ》いつ研究したの？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《どこで》どこで研究したの？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《だれが》誰が研究したの？誰と研究したの？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《何を》どんな研究をしたの？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《結果》(結果)どうなった？</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						《なぜ》なぜ研究したの？(動機や目的)		《いつ》いつ研究したの？		《どこで》どこで研究したの？		《だれが》誰が研究したの？誰と研究したの？		《何を》どんな研究をしたの？		《結果》(結果)どうなった？	
《なぜ》なぜ研究したの？(動機や目的)																	
《いつ》いつ研究したの？																	
《どこで》どこで研究したの？																	
《だれが》誰が研究したの？誰と研究したの？																	
《何を》どんな研究をしたの？																	
《結果》(結果)どうなった？																	
<p>(3) 自分の変化についてまとめてみよう(内容のため、グループで確認してもOKです！)</p> <p>「意思・役割・能力」でまとめてみよう！</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>《意思》 どのような地域(世の中)にしたいと思ったか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《役割》 チームの中で、どのような役割を担ったか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>《能力》 どのような能力(知識やスキル)が身についたか</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※今注：○□カなど、早割で実施できなくてもOKです。主体的に進んでみましょう。←必ず付けてOKです。</p> <p>本日は行ったことは、志望就職要件にも活かされるはずですが、自分の志望校や志望する道場を見据えて《意思》《役割》《能力》を考えてもいでしょう。</p> <p>※注：冬休みの課題に、Google Classroomに「ふりかえり」の課題を出しておりました(4名のみ担当→担当)。皆さんどのようなことを学んだのか、ぜひ教えてください。また、裏面に、大学入試の情報を載せています。時間がある時、見てみてください。</p>						《意思》 どのような地域(世の中)にしたいと思ったか		《役割》 チームの中で、どのような役割を担ったか		《能力》 どのような能力(知識やスキル)が身についたか							
《意思》 どのような地域(世の中)にしたいと思ったか																	
《役割》 チームの中で、どのような役割を担ったか																	
《能力》 どのような能力(知識やスキル)が身についたか																	

《備考》

ふりかえりは、5W1Hに従って事実を振り返り、自身の成長を図るため「意思・役割・能力」の3つの視点から、それぞれ振り返った。

コラム さまざま大学の総合型選抜の入試問題で、「課題解決型学習」について問われている

令和3年度へるん入試（へるん特選型）地域志向入試

氏名

地域志向レポート

地域について、どのような課題があり、どのような解決方法が考えられるか、その解決に向けて自分がどう関わっていくか等、現在考えていることや具体的な文章を記入してください。

（鳥根大学 令和3年度へるん入試（へるん特選型）地域志向入試）

書式A【課題解決型学習に関する調査書】（A4横4倍用紙）

氏名

所属学校

課題解決型学習の目的

課題解決型学習の計画

課題解決型学習の進捗

課題解決型学習の成果

（大分大学 令和3年度経済学部総合型選抜調査書）

プレゼンテーションの要領

地域づくりコースでの「学び」に対する意欲、自己表現力やコミュニケーション能力などを評価します。参考資料として調査書及び志願理由書を活用します。

【プレゼンテーションのテーマ】
「地域づくりに関して、これまで取り組んできたこととそこで得られた学びを示してください。それを踏まえて、本学入学後にどのような学びを得たいと考えていますか。あなたの考えを示してください。」

（令和3年度鳥根県立大学 地域政策学部学校推薦型選抜 地域づくりコース）

裏面には、総合型選抜にて、探究学習の内容が問われていることを示し、振り返りの重要性を伝えている。

* Google Classroom を活用し、ふりかえりやスライド作成を行なった。

(3) 生徒の発表内容 (スライド)

○研究名：出羽の魅力再発見するために

<p>出羽の魅力再発見するために</p> <p>産 産 産 田中 結菜 南本 風花 秋田 成輝 大村 遥輝</p> 	<p>はじめに</p> <p>● 私たちが取り組む課題は・・・</p> <p>出羽</p> <p><人口>・・・314人 <世帯数>・・・95世帯 <面積>・・・約3,000平方メートル</p> 	<p><出羽を選んだ理由></p> <p>1. 建物、食べ物が発展している。 2. 自然がとてもきれいだ。</p> <p>より多くの人に 出羽と言う場所、出羽の魅力を 知ってもらいたいと思った</p> 	<p>研究課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コロナの影響で小学生が集まらない ● 出羽に住んでいる人同士が交流ができていない（コロナの影響） <p>↓</p> <p>● 少人数でも人同士の交流ができる場を作る ● 出羽の魅力を改めて知ってもらう</p>										
<p><出羽をPRする方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出羽でピザ講座 ⇒ 出羽の野菜を使う ● 出羽の動画を撮ってSNSで発信する ⇒ 100人以上の人に届く 	<p>研究内容</p> <table border="1"> <tr><td>5月</td><td>リサーチ実施</td></tr> <tr><td>6月</td><td>実際にピザ作り体験（4名参加）</td></tr> <tr><td>7月</td><td>実際にピザ作り体験（1名参加）</td></tr> <tr><td>9月13日</td><td>出羽でピザ作り</td></tr> <tr><td>10月</td><td>出羽でピザ作り</td></tr> </table> <p>ピザ講座の際にはわんぱく学校の野菜を使いました。</p>	5月	リサーチ実施	6月	実際にピザ作り体験（4名参加）	7月	実際にピザ作り体験（1名参加）	9月13日	出羽でピザ作り	10月	出羽でピザ作り	<p>わんぱく学校とは・・・</p> <p>出羽の小学生が地域の方と一緒に作っている畑</p> <p>野菜の種類はとても豊富！！ 面積はとても広い！！！！</p>	<p>わんぱく学校の畑</p> 
5月	リサーチ実施												
6月	実際にピザ作り体験（4名参加）												
7月	実際にピザ作り体験（1名参加）												
9月13日	出羽でピザ作り												
10月	出羽でピザ作り												
<p>研究過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校での準備 ● 試作 	<p><準備をして気づいたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピザ生地は袋で作るとべたつく、こねにくい ● パサパサした食感で美味しくない ● 分量の調整が大切 <p>↓</p> <p>親子で作るのは難しい</p>	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ピニール手袋をつけて作業してもらう ● 載せる具以外は、あらかじめ測ったものを渡す ● レシピを配布する 	<p>レシピについて</p> <p><レシピを作った理由></p> <p>イベント後もまた作ってほしいと思った</p> <p><工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ● うまく作るための注意点を書く ● オープンでの調理法を書く（家で作るように） 										
<p>ピザ講座当日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日時：9月13日（土）10時スタート 2. 人数：親子5組（13人）スタッフ10人 3. 場所：青少年旅行村 	<p>● ピザを焼く窯</p> <p>● 完成したピザ</p> 	<p>活動後、参加者全員にアンケートを取りました。</p> <p>～アンケートの結果・感想～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 親子で作ることができた。 ● 出羽の地域の人と交流できた。 ● 高校生とも交流でき、とても楽しくできた。 ● 家でもやってみたいと思った。 	<p>ピザ講座がうまくいった</p> <p>なぜ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 9月に行ったので暑すぎず快適にできた ● 親子で協力しないと作れない活動考えた ● 高校生が各テーブルを回り教えた <p>↓ 結果</p> <p>親子や高校生との交流ができた</p>										
<p>ピザ講座の振り返り</p> <p>ピザ作りが成功！！</p> <p>→ 人が集まるという目標に達していない</p> <p>そこで.. SNSを活用！</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出羽の景色やご飯などを撮り、SNSにアップする → 出羽の魅力をたくさんの人に知ってもらう 	<p>浜田商業高校の動画を参考に</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象 コロナで鳥根県浜田市に帰省できなかった人 ● 内容 浜田市内の風景撮影 	<p>私たちが作る動画</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象 コロナで出羽に帰省できなかった人 田舎に興味がある都高生の人 ● 内容 出羽の風景 出羽の人のインタビュー 	<p><動画内で出羽の魅力を知ってもらう方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 画像にナレーションや文字をつける ● 出羽の人にインタビューをする（出羽の良い所を聞く） ● 自然だけでなく遊ぶ所や食べ物も撮影する 										

<p>動画を第一弾と第二弾に分けて投稿する</p> <p><第一弾></p> <ul style="list-style-type: none"> 出羽の風景（自然、建物など） ⇒2021年1月中旬に投稿(目安) <p><第二弾></p> <ul style="list-style-type: none"> 出羽の方へのインタビュー 出羽の風景 ⇒2021年3月中旬に投稿(目安) 	<p>最終的なゴールは！！！！</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光の方・出羽を知らない方に 少しでも出羽に来てもらう！ 2. コロナの影響で出羽に帰ってこれない人に 動画を見てもらう！ 3. 多くの人に出羽の魅力を知ってもらう！ 	<p>最後に</p> <p>～ビジュアルの感想～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画は見栄えが良かった。深い印象をもらってやりがいを感じた。 ・少し印象の悪い部分があったので、投稿時より少し調整できたら良かった。 <p>～動画制作の感想～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画制作の面白さを感じた。動画制作が楽しくなった。 ・スマートフォンで撮影した方が、手振れが多くなり少し難しかった。
--	---	--

○研究名：おいでよ香木の森公園

<p>おいでよ香木の森公園</p> <p>和田直佑 河手風雅 森脇幹美 日野織 青田様夫 森口隆斗</p>	<p>1.はじめに</p> <p><活動の経緯></p> <p>取り組む研究テーマ「地域型」</p> <p>町内外のターン・Uターン者」「空き家問題」</p> <p>「医療費の免除」「若者層の故郷疎遠」</p>	<p>1.はじめに</p> <p>各項目から絞り...</p> <p>香木の森</p> <p>主に観光客数の増加、知名度の向上を目的とした取り組みで、地域と連携して子育てに対する支援。</p> <p>↓</p> <p>地域活性化へ</p>	<p>1.はじめに</p> <p><研究テーマ></p> 																
<p>1.はじめに</p> <p>(研究テーマのきっかけ)</p> <p>子育ての発展を掲げている邑南町には、子供の遊べる施設が自立的にない(約14箇所のみ)。また町全体では町内外の観光客が年々減少しているという課題も挙げられている。香木の森を中心とした子供遊べる遊び場と観光の2観点から町おこしとなるような企画で地域活性化に貢献したいと思い、この研究テーマとした。</p>	<p>1.はじめに</p> <p><香木の森の観光事業と観光客の推移></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハープ園が廃業、オーガニック公園の有無無状態。 ・ボランティアの受け入れは今現在していない。(インターンシップ?) 	<p>1.はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の草刈り、街路樹の整備と歩道清掃(泉の里と協働) ・ブルーベリーの摘み取り体験 ・クラフト体験 ・ハープガーデン、グリーンハウス体験(講師指導) 	<p>1.はじめに</p> <p>▼来場者数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>来場者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015</td> <td>153,762</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>92,000</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>82,184</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>83,768</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>75,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>▲来場者数のグラフ</p>	年	来場者数(人)	2015	153,762	2016	92,000	2017	82,184	2018	83,768	2019	75,400				
年	来場者数(人)																		
2015	153,762																		
2016	92,000																		
2017	82,184																		
2018	83,768																		
2019	75,400																		
<p>2.研究課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香木の森公園の調査 ・パンフレット ・イベント ・看板設置 	<p>2.研究課題</p> <p><公園></p> <p>香木の森の開設遊具 →木造のため劣化が見られ一時は使用禁止に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性に配慮された遊具が必要。遊具改善は来場者数増加にも繋がる見込みがあると考えた。 <p>新設遊具を設備した自然公園を作る</p>	<p>2.研究課題</p> <p><パンフレット></p> <p>Q:香木の森公園一帯では何が出来るのか?</p> <p>現状)周辺施設の概要を知らない人も少なくない</p> <p>↓</p> <p>・高校生プロデュースのパンフレットを作り、香木の森公園一帯の過ごし方を提案する。</p>	<p>2.研究課題</p> <p><イベント></p> <p>高校生が香木の森でイベントを開催</p> <p>→ラベンダーの摘み取り体験などが定期的にある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までにないイベントを行ない直接的に来場者を集める 																
<p>2.研究経緯</p> <p><看板></p> <p>香木の森公園へのルート</p>  <p>→立地が高く徒歩で足を運ぶ人は少なく、自動車での来場がほとんど。</p> <p>→公園までのルートを確認にさせることで来場者増加</p> <p>↓</p> <p>目印となる場所に看板を立てる</p>	<p>3.研究経過</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>企画書作成 地域の方との連携共有</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>企画書作成 地域の方との連携共有</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>香木の森(観光協会)へ訪問</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>フィールドワーク(香木の森)</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>立命館大学と活動</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>フィールドワーク(香木の森、原山産業ロード)</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>現場訪問 写真撮影 パンフレットの原案作成</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>発表準備・発表</td> </tr> </tbody> </table>	月	企画書作成 地域の方との連携共有	6月	企画書作成 地域の方との連携共有	7月	香木の森(観光協会)へ訪問	8月	フィールドワーク(香木の森)	9月	立命館大学と活動	10月	フィールドワーク(香木の森、原山産業ロード)	11月	現場訪問 写真撮影 パンフレットの原案作成	12月	発表準備・発表	<p>3.研究経過</p> <p><ご協力いただいた方々></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大橋さん(邑南町生涯学習課長) ・三上さん(邑南町生涯学習課) ・村田さん(邑南町観光協会専務理事) ・尾谷さん(邑南町高工観光課) 	<p>4.研究内容</p> <p><香木の森遊具の実態調査></p> <p>7/19(日)</p> <p>・香木の森公園遊具整備事業子育て世代見聞交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊具についての話し合いに参加 ・参加者17名程 ・現場と子育て世代を交えた状況説明・意見交換 
月	企画書作成 地域の方との連携共有																		
6月	企画書作成 地域の方との連携共有																		
7月	香木の森(観光協会)へ訪問																		
8月	フィールドワーク(香木の森)																		
9月	立命館大学と活動																		
10月	フィールドワーク(香木の森、原山産業ロード)																		
11月	現場訪問 写真撮影 パンフレットの原案作成																		
12月	発表準備・発表																		
<p>4.研究内容</p> <p>1.町の整備方針の流れ</p> <p>→遊具整備に関する説明</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い場 ・親の休憩場(屋根付き) ・自由に子供が遊ぶ、安全性の高い遊具 	<p>4.研究内容</p> <p>2.現地視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロケーション ・現状の遊具 ・敷地状況(地形等の状況) 	<p>4.研究内容</p> <p>3.意見交換</p> <p><望まれる施設> (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が見ていないと危険→高さのない遊具 ・砂場(管理が難しい) 	<p>4.研究内容</p> <p>▼高さのある遊具</p> 																
<p>4.研究内容</p> <p><望まれる施設> (意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低年齢層 & 高年齢層のもの ・足場の悪さ、遊具の汚れやすさ ・難さ防止の遊具(夏)→足元から水 	<p>4.研究内容</p> <p>それから4ヶ月後...</p> <p>役場の商工観光課へ訪問</p>	<p>4.研究内容</p> <p><企画した活動についてのご相談></p> <p>→子育て環境の整備について質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の邑南町→mont・bellと協定 ・並んで「株式会社コトブキ」と共同で企画 →香木の森に新設遊具 	<p>4.研究内容</p> <p><株式会社コトブキ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供向けの遊具やベンチなどをデザイン ・役場は発表会で依頼先を吟味 ・安全性なども踏まえ決定 <p>株式会社コトブキ</p> 																
<p>4.研究内容</p> <p><共同企画の詳細></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存遊具は残し、ハープガーデン横に設置 ・安全性の配慮を第一にした遊具のデザイン ・主に0～6歳を対象に設計 	<p>4.研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親のための休憩スペース確保 ・脱着遊具・トイレ等の案内板 <p>→特に脱着遊具の入り口は見つけにくい</p> <p>→当初は企画の一つとして実行予定。</p> <p>この訪問で会社へ委託した。</p> 	<p>4.研究内容</p> <p>▶現在の様子</p> 	<p>4.研究内容</p> <p>以前と変わった様子は見られなかった</p>																
<p>4.研究内容</p> <p><新規パンフレット作り></p> <p>香木の森公園の新パンフレット</p> <p>→高校生がプロデュース</p> <p>→周辺施設の紹介</p>	<p>4.研究内容</p> <p><立案の背景></p> <p>9月▶立命館大学との活動</p> <p>大学生の方から案を頂き作成に至る</p> 	<p>4.研究内容</p> <p>▼既存のパンフレット(ガイドマップ)</p> 	<p>4.研究内容</p> <p>▼やまんなの里グレルマップ</p> 																

<p>4.研究内容</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生らしさ ・実際に利用したときの感想 ・イラストや写真(遊んでいる様子や飲食の様子) 	<p>4.研究内容</p> <p>▶ラフ</p> 	<p>4.研究内容</p> <p>パンフレットのデザインを「こめじるし」さんに依頼</p>  <p>1月に打ち合わせ</p>	<p>4.研究内容</p> <p><計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ○配布予定場所 →保育所、児童クラブ、公民館など ○アンケート掲載 →宣伝と同時に子連れ世代を対象にした調査
<p>4.研究内容</p> <p><看板></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香木の森公園への目印となる地点に看板を設置 →手作りの看板を作成 →道の上から見えるように設置 	<p>4.研究内容</p> <p><歩行者用看板></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香木の森へ徒歩で移動する割合は少ない ・歩行者用の案内看板は公園付近で二箇所確認した 	<p>4.研究内容</p> <p>▼歩行者用の案内看板</p> 	<p>4.研究内容</p> <p><運転者用看板></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入り口の分岐点から少し離れた場所に一箇所確認できた。 →フィールドワークから重要な分岐点には看板が必要だと感じた。
<p>4.研究内容</p>  <p>◀運転者用の案内看板</p>	<p>4.研究内容</p> <p><設置予定地></p> <p>▼日和トンネル前の十字路</p> 	<p>4.研究内容</p> <p><問題></p> <p>商工観光課との相談</p> <p>↓</p> <p>設置予定地の土地所有権の有無 役場に調査を依頼</p>	<p>4.研究内容</p> <p>その後の報告次第で看板が設置できるかを検討し、看板の設計を行う。</p> 
<p>5.考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所や児童クラブの保護者や地域の方を対象にしたアンケートを実施する ↓ ・アンケートで出た統計をまとめた役場に提出してみてもよいと思った 	<p>7.終わりに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と香木の森について考えるよい機会となった ・次々と課題がきて大変だが、同時にやりがいも感じた ・今後も地域の方と協力して取り組みたい 	 <p>ご清聴ありがとうございました。</p>	

○研究名：洗心庭を魅力的にしよう

<p>洗心庭の魅力化</p>  <p>水戸市 高尾紀美 竹内聡心 三上心真 阿部幸樹 岡本佳奈</p>	<p>洗心庭クイズ</p> <p>Q 洗心庭とはどのような場所でしょう？</p>	<p>① 池に水を入れ、魚を育てる場所 ② 人の心をほっとさせ、心を落ち着かせる場所 ③ 花や木を植えて育てる場所</p>	<p>答えは...</p> <p>② 人の心をほっとさせ、心を落ち着かせる場所</p>
<p>●洗心庭の歴史</p> <p>「洗心」とは 少し難しくいいますが、 静かな深い境地に心を置くことで、 人々の苦しみや悩みを我事のように思いやり、 癒やすこと。</p>	<p>・洗い流すべき心の汚れ</p> <p>×「不安や不満、嫉妬、怒り、はかりごと」などの悪い心 ○「期待や願い、固定観念」などの良い心</p>	<p>大事なこと!!</p> <p>平常の心で現実と未来を受けとめること</p> <p>↓</p> <p>心の波風が立つこともなくなる</p>	<p>●はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校には洗心庭があります。しかし、池の水がなくて草や木の手入れもされておらず洗心庭には人が集まらなくなりました。 ・洗心庭にした理由... 身近なところを人が集まるような、魅力的な場所にしたかったからです。
<p>●近畿大学の洗心の庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の池として、クスノキ、ヤブコウジ、スズメバチ、キリギリスが植えられている。 ・お庭になると大学生たちが芝生やベンチに寝そべり、夏や秋に遊んでいる。 ・遊んで食事したり、寝転んで読書したり、水を飲んだり、ひと静養している。 	<p>●研究課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まったような場所に集まるか ・どのようにしたら人が集まるのか 	<p>●研究内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ①洗心庭の掃除 ②ベンチ作り ③写真展示会 	<p>●洗心庭の掃除</p> <p>落ち葉、枯れ草、ゴミ拾い</p> <p>→庭園を綺麗に保つていく必要があります。</p> <p>定例的に掃除を行うべき!</p> 
<p>●ベンチ作り</p> <p>地域の方の木材をもらった丸太で丸太ベンチ作り (鳥野製材所提供)</p> <p>↓</p> <p>高尾が伊豆を歩いたりできるような休憩スポットに!</p>	<p>作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ヤスリで磨くところの表面を削る ②ニスで2回塗り重ねる 	<p>●写真展示会</p> <p>期日：12月15日(火)～12月22日(水) 場所：洗心庭</p> <p>失学生思い出の写真を掲載 生徒や先生に観に来てもらい楽しんでもらう!</p> 	<p>反省...</p> <p>チラシを作ったが配布できなかった</p> <p>↓</p> <p>たくさんの人に観てもらおうできなかった</p> 
<p>●看板作り</p> <p>木材はお店で買った物や、ベンチ作りで残った丸太を使って作りました。</p> <p>工夫したところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホのデザイン ・画でわからないようにQRコードを貼ったこと 	<p>反省...</p> <p>デザインは良かったが、大きさが小さく目立たなかった。</p> <p>今後の看板の使い道</p> <p>看板式、人前で、写真撮影もよくなった行動のとき、生徒寮前の近くなど活用できると思います。</p>	<p>●考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗心庭には公園のような遊歩道があります。ですが、失生の洗心庭のように人が集まらない理由も沢山あるので、人が集まるためにはどうしたら良いのか考えたい。 ・イベントをすることで人が集まる <p>そのため...</p>	<p>～季節ごとにイベントをひらく～</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の節の祭り、ひな祭り ・夏は夏祭り、七夕 ・秋は紅葉、ハロウィン ・冬のイルミネーション 

<p>●今後の課題</p> <p>継続して人が高まるために...</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 「決心固の補強を定期的に行う」 「イベントを季節に合わせて行う」 「ベンチを利用して休憩スポットに出来るようにする」 	<p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「決心固の自然を注ぎつつ、人が集まるように工夫して企画を考えて実行することが重要だった」 「身近なところなのに、なかなか人の目に入らないのは、その場が魅力的でなかったからです。魅力的にするためにイベントを頻したり、季節的に補強をしたり、休憩スポットにするなど人が来たいと思うような場所にする必要があると考えました」 「少しでも多くの人に決心固について知ってもらえるのを期待しています」 <p>※来年の発表フォーラムに生かしてほしいです</p>	<p>ご清聴ありがとうございました</p>	
--	---	-----------------------	--

○研究名：バリアフリーを目指して

<p>バリアフリー を目指して</p> <p>天川晃一 各本透 上田麗人 心塚七穂 木塚利直</p>	<p>これに取り組もうと思った理由</p> <p>色んな町には障がい者施設が多くあるが関心深いのは障がいを持っている方は仕事に就くことが難しい</p> <p>共生社会とは何かを知りたいと思ったから</p>	<p>バリアフリーとは</p> <p>社会制度や人々の意識を含む、あらゆる障壁を取り除くことを指す</p> <p>↓</p> <p>「物理的なバリア」「制度的なバリア」 「文化・情報障壁」「バリアフリー意識の向上」</p>	<p>まず、誰がいてどういうものがあるの？</p>				
<p>障がい者の実態</p> <p>障がい者雇用率目標 (平成30年度)</p> <p>117,000円 125,000円 264,000円</p>	<p>障がいは大きく分けて12区分ある</p> <p>視覚障がい 肢体不自由 聴覚・言語障がい 依存症 盲ろう 内部障がい など</p>	<p>全国の現状</p>	<p>島根県の現状</p>				
<p>障がい者の実態</p> <p>障がい者雇用率目標 (平成30年度)</p> <p>117,000円 125,000円 264,000円</p>	<p>障がい者の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身体障がいを持つ方でも一般雇用種の労働者と比べると、年間に60万円の差がある。 ●ボーナスや残業手当の差を含めると、年間所得の差は100～150万円と言われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者雇用における入社後の職場定着率をみると、一番定着率の高い身体障がい者でも、入社1年以内には約3割の人が退職。一番定着率が低い精神障がい者では入社1年以内に約7割が退職 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心の距離を縮める ●障がい者が持っている不安をなくす ●共生社会を目指す 				
<p>心の距離を縮めるためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ●邑南町にある石見養護学校の生徒と交流 (まずは仲良くすることを目的) ●養護学校の生徒と一緒に生活面での不便なこと、地域について考え話し合う 	<p>養護学校の先生と交流前の話し合いの様子</p> <p>10月21日(木)</p> <p>邑南町 養護学校の先生方にお話を伺い、お見舞い学校が「交流について」どのように感じているかヒアリングしました。</p>	<p>養護学校の生徒が感じていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●良い目がある ●目の前に人がいると構えてしまう ●将来、社会での生きづらさを感じる ●養護学校の生徒であると見られることに抵抗がある <p><u>自分の人生に不安や悩みを抱えている</u></p>	<p>実際の悩み</p> <p>他校の生徒と同じバスに乗る事がつらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●養護学校の生徒だと思われたくない ●自分たちは偏見を持たれているのでは心配する声も 				
<p>自分に自信が持てない</p> <p>私たちの気づかないところで心のバリアが生じている</p>	<p>養護学校の先生の思い</p> <p>心の距離を縮めてほしい</p> <p>同級生として対等に話し合える関係をつくってほしい</p> <p>良い目を感じていたのは自分たちの思い過ごしだったことに気付いてほしい</p>	<p>石見養護学校との交流</p> <p>交流日時</p> <p>15:15 あいさつ 15:30 自由制作 15:45 ミニコンサート (準備) 16:00 話し合い 16:00 終わりのあいさつ</p>	<p>交流内容</p>				
<p>交流のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒が交流に不安を感じていたが、交流の中で話したり、笑顔を交わしたことで、お互いに打ち解け合うことができた。 ●また養護学校の生徒が感じていた良い目などの感情が軽くなった。 	<p>第二回石見養護学校交流</p> <p>交流日時</p> <p>15:30 あいさつ 15:45 スライムの準備 16:00 絆を糸につけて話し合い 16:30 終わりのあいさつ</p>	<p>交流内容</p>	<p>交流のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今の生活について話し合いながら、共生社会とは何かを一緒に考えた ●石見養護学校の空席の現状としては、コミュニティバスもどこかの手が届かないと話すことは得難いという生徒、また今の生活がてら楽しいという生徒もいた ●意見は様々だが、それぞれ共生社会の理想を持っていくように感じた 				
<p>活動経過</p> <table border="1"> <tr> <td>11月6日(金)</td> <td>12月16日(水)</td> </tr> <tr> <td>場所:石見養護学校 活動:アイスブレイク(準備)</td> <td>場所:石見養護学校 活動:スライムの準備 共生社会をもっと話し合い</td> </tr> </table> <p>感想の中で養護学校の生徒が、「自分たちは偏見を持たれているのでは」と心配する声があった。</p> <p>動き合いを通して養護学校の生徒の悩みや現状を知り、共生社会について考えました。</p>	11月6日(金)	12月16日(水)	場所:石見養護学校 活動:アイスブレイク(準備)	場所:石見養護学校 活動:スライムの準備 共生社会をもっと話し合い	<p>今後の活動</p> <p>今後先上高校と石見養護学校で石見にある養護学校を回り作り進める活動を予定しています</p>	<p>あいサポート研修</p> <p>邑南町社会福祉協議会の方に「障がいを知り、共にできる」をテーマに、共にできる活動の進め方など、具体的な実践の事例を研修してもらった。</p>	<p>あいサポーター</p> <p>「あいサポートパス」を身につけ、障がいの特性や必要な配慮などを理解して、障がいのある方を手助けする方々のこと</p> <p>「あいサポートパス」</p>
11月6日(金)	12月16日(水)						
場所:石見養護学校 活動:アイスブレイク(準備)	場所:石見養護学校 活動:スライムの準備 共生社会をもっと話し合い						
<p>ヘルプマーク</p>	<p>社会的障壁は誰にでもあります</p> <p>物理的障壁の上にある公園には、誰も行くことはできません。誰にとっても、障壁のある社会です。</p>	<p>そこに障壁が設置されれば、歩いて行くことができます。それでも、歩いてを歩いている人や、ベビーカーを歩いている人は公園に行くことができません。障壁が先かれています。</p>	<p>そこにスロープを設置すれば、誰もが公園に行けるようになります。歩いて歩いている人は歩けるだけでなく、ベビーカーの移動も楽になります。</p>				

<p>あいサポーター寺本さんの考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 共生社会に正解は無い ● 迫っている人には障がいの有無にかかわらず自然と支え合う ● 困っているように見えても、相手が求めていなければ、相手を不快にさせることも... 	<p>私たちにできること</p> <p>まずは「なにかお手伝いできることはありませんか?」と声をかける。</p> <p>相手の思いに成じ手伝ったり見守ったりすることを選択する</p>	<p>今後の課題</p> <p>石見養護学校の交流をこれからも継続的に行う</p> <p>共生社会とは何か一緒に考えて生きたい</p> <p>他の障がい者施設にも訪れ、共生社会の実現を幅広く知りたい</p>	<p>考察</p> <p>課題に気づいてみることで今自分たちが抱えている思いを聞くことができた</p> <p>私たちと障がいを持っている方々の間に心の距離が存在するのはお互いがお互いのことを知り合いがために生じるコミュニティの弊があるからではないかと考える</p> <p>今回の交流での距離を縮めることはできたがその距離はいまだ遠いように感じる</p>
<p>おわりに</p>	<p>ご清聴ありがとうございました</p>		

○研究名：本来の自然を取り戻そう

<p>本来の自然を取り戻そう</p>  <p>照喜名琢太 中田和 上田浩太郎 服部有紀 松浦悠加</p>	<p>始めに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が今の場所に戻ってほしいから。 ・地球上の環境問題の中心を邑南町を主体として世界に発信していきたいから。 	<p>本来の自然とは</p> <ol style="list-style-type: none"> ①その自然物そのものの生き・生育場所の保全 ②人為が加わっていないありのままの状態、現象 ③人工物の少ない環境 ④人間を除く自然物および生物全般 	<p>研究課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開拓などによる森林の減少 ・サギのフンが子供たちの健康に影響 <p>↓</p> <p>サギを追い出す(鳥獣保護法で駆除は禁止)</p>																										
	<p>サギについて</p> <p>悪天候や鳥インフルエンザのため中止</p> <p>↓</p> <p>年明けに実行する予定</p>	<p>地球温暖化(ヒートアイランドの原因)</p> <p>ヒートアイランド現象の主な原因として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地表被覆率の人工化 ②都市部での高層ビル ③人工緑地の増加の効果が受けられません。 	<p>温室効果ガスについて</p> <p>主な温室効果ガス 二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガス</p> <ol style="list-style-type: none"> ①最も大きな温室効果ガスは二酸化炭素 ②石油や石油の消費、セメントの生産により大量の二酸化炭素が大気中に放出 ③大気中の二酸化炭素の吸収源である森林が減少 																										
<p>得表</p> <p>IPCC第五次評価報告書(2014)より</p> <p>2100年には気温が最大で4.8℃上昇</p> <p>水蒸気、二酸化炭素などの温室効果ガスがなくなると... 最大でマイナス1.9℃</p>	<p>対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エアコンの設定温度は、夏は26℃、冬は20℃に。 2. 使わない電化製品は、主電源を切り、コンセントからプラグを抜く。 3. 誰もいない部屋の電気は消す。 4. テレビのつけっぱなしをやめる。 5. 近い距離の移動は、自転車などを利用し、公共交通機関をなるべく使わないように心がける。 	<p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化について調べ、対策を考える ・扉を作ってサギのいる竹やぶに扉をとおす(予定) ・降雪のため現場で扉を上げることはできていません 	<p>経路経過</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>サギを追い出す方法について調べる</td> </tr> </tbody> </table>	期	実施内容	1月	サギを追い出す方法について調べる	2月	サギを追い出す方法について調べる	3月	サギを追い出す方法について調べる	4月	サギを追い出す方法について調べる	5月	サギを追い出す方法について調べる	6月	サギを追い出す方法について調べる	7月	サギを追い出す方法について調べる	8月	サギを追い出す方法について調べる	9月	サギを追い出す方法について調べる	10月	サギを追い出す方法について調べる	11月	サギを追い出す方法について調べる	12月	サギを追い出す方法について調べる
期	実施内容																												
1月	サギを追い出す方法について調べる																												
2月	サギを追い出す方法について調べる																												
3月	サギを追い出す方法について調べる																												
4月	サギを追い出す方法について調べる																												
5月	サギを追い出す方法について調べる																												
6月	サギを追い出す方法について調べる																												
7月	サギを追い出す方法について調べる																												
8月	サギを追い出す方法について調べる																												
9月	サギを追い出す方法について調べる																												
10月	サギを追い出す方法について調べる																												
11月	サギを追い出す方法について調べる																												
12月	サギを追い出す方法について調べる																												
<p>おわりに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南町の活性化と共に、地球の環境問題を少しでも食い止めることが出来たら良い。 																													

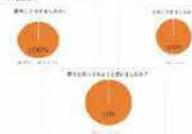
○研究名：空き家を使って物々交換!

<p>空き家を使って物々交換!!</p>  <p>メンバー 渡利益太郎 秋田唯希 日高崇文 森脇研華 岩切来希</p>	<p>企画理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南町の空き家問題に目をつけた →空き家を使ってものを売る企画: ✕ →空き家を使って物々交換という企画: ○ 	<p>現状の課題</p> <p>空き家の全国総数は846万戸 高根県は47,700戸 住宅総数の15%以上</p> <p>→寂らす方法</p> <p>空き家の使用方法 →考える</p>	<p>課題の解決</p> <p>前半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南町の人が自由にものが売れて買えるような店 ・矢上高校産業技術科専用の矢高ショップ <p>→お金が発生してしまう</p> <p>→空き家の解決方法として続かない</p>
<p>課題の解決</p> <p>後半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金を使わないゼロ円ショップ ・人の想いも交換する <p>→お金が発生しない</p> <p>→無人でもできるため、いろいろな場所ですやすい</p>	<p>理想に近づくために</p> <p>はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に場所へ行く →壁や床が割れている <ul style="list-style-type: none"> ・物々交換をするための初期物資を集める →高校生の中でアンケート取り集めた →地域の人からも頂けた 	<p>作ったチラシ</p> 	<p>店舗内の様子</p> 

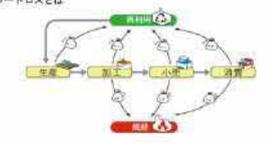
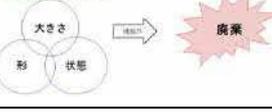
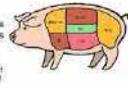
 <p>白板・ブルーシート</p>	<p>活動内容 (商品運び)</p> <p>壁のはがれていた部分ブルーシートを敷き、壁は白紙で貼した。</p> 	 <p>準備の様子</p>	<p>活動内容 (商品並べ)</p> <p>運送してもらった商品を並べた</p> 
<p>活動内容 (デコレーション)</p> <p>消費などを準備し、お店をデコレーションした</p> 	<p>活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 10月1日(日) ・在籍者参加人数 72人 	<p>当日の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来たお客さんに検温とアルコール消毒をした。 ・お客さんが持ってきた商品と、チケットを交換した ・チケットの説明を行った ・チケットと商品を交換した ・受付でアンケートを答えてもらった 	<p>交換チケット</p> 
 <p>当日の様子</p>	<p>物産紹介</p> <p>34日個あった商品が 47日個になりました！！</p> 	<p>アンケート用紙</p> 	<p>活動によって生まれた縁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が軌道の運営を助けてくださった ・その運営を矢上高校刺繍部が交換をした ・この交換で得られたもの <p>お金 円 ↓ 人々 縁</p> 
<p>空き家解決のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の活用は誰でもできると、お店として活用ができた。 ・空き家の活用は誰でもできる ・空き家の活用方法が多かった。 	<p>物々交換のまとめ</p> <p>一売り買いでできるお店 ↓ のショップに 次回の再興しとま東店</p> 	<p>次の活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと企画の宣伝をする ・そして次は矢上高校の食と農研学会とコラボ、矢上高校の宣伝もしていく 	<p>後輩へ</p> <p>・この活動を来年、再来年も続けてほしい</p> 
<p>地域への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは空き家を利用する一つの例として、「物々交換する場所」として使いました。 ・私たちは物々交換にしましたが、ほかにも「空き家問題」の解決方法はあります。 ・空き家を何らかの形で活用することを、町内全体で行うということを考えてみてはいかがでしょうか。 		<p>ご静聴ありがとうございました。</p>	

○研究名：日貫×邑南ドリームプロジェクト

<p>日貫×邑南ドリームプロジェクト</p> <p>企画担当 森下心平 稲田裕太郎 企画委員 寺本愛理</p>	<p>はじめに日貫を選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢上高校の産業技術科と身近な地域である日貫地域と連携して活用を促進もせよとあった。 ・日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった。 ・日貫の特産物である、そば粉やごぼうをもっといろんな人に知ってもらいたかった。 	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日貫に人が少ないので日貫の特産物である「そば粉」を使って日貫に人を呼びかけて、日貫のことを知ってもらうこと。 ・両目付、矢上高校が作った味噌やジャムを販売して矢上高校のことを知ってもらうこと。 <p>邑南町活性化！！</p>	<p>考えていた活動の課題点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①田山崎駅住宅などの歴史的建造物を活用して、日貫の良さを知ってもらう。→但し車などで人が来るのに不便があったので難関 ②日貫の特産物の産地ごぼうを使って、小学生とごぼうクッキーを作る。→ごぼうクッキーは何年も前からあるもので、すでにあるレシピをただ作るだけでは新鮮感がないので難関
<p>日貫ウォークラリー</p> <p>11月1日(日)日貫で行われる「日貫ウォークラリー大会」に参加し、日貫の魅力を発信する機会を捉え、タイムに正確にしたらスタンプの取集りをもっと楽しめよう</p> 	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> →日貫の名産をもっと知ってもらう →地域の人と交流して日貫のことを知ってもらう →日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった →日貫の特産物である、そば粉やごぼうをもっといろんな人に知ってもらいたかった 	<p>日貫の「一目」というお店に協力してもらいそば粉を使った餃子を作る</p> <p>参加者と作る</p> <p>作った餃子を日貫小学校や公民館などで販売</p> 	<p>そば粉クッキーレシピ</p> <p>材料(2人分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そば粉 75g ・白砂糖 60g ・卵 1個 (100g-150g) ・砂糖 大さじ2(10g) ・きな粉 大さじ2 (10g) 
<p>作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった 2. 日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった 3. 日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった 4. 日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった 5. 日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった 6. 日貫の歴史や特産物に興味を感じ、もっと日貫のことについて知りたくなった 	<p>そば粉を使った料理の試作品</p> <p>直んだ理由</p> <p>日貫には伝統的な食べ物である「重宝そば」があり、そのそば粉を使って新しい料理を作ってみようと思った</p> <p>→手軽に餃子で作れると思った</p> 	<p>概要</p> <p>→そば粉の味が餃くそのままでほのかなが食べやすい</p> <p>餃子を飾り立て</p> <ul style="list-style-type: none"> →そば粉と自家製の生地にも多く使いやすさを感じようとした →餃子を作った →きな粉、あんこなどを合わせるようにした 	<p>そばもち煎餅(仮)レシピ</p> <p>材料(2人分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そば粉 75g ・白砂糖 60g ・卵 1個 (100g-150g) ・砂糖 大さじ2(10g) ・きな粉 大さじ2 (10g) 
<p>作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. そば粉と白砂糖を混ぜる (粉は、準備はいい) 2. 卵を割り入れ、白砂糖を混ぜる (卵は、準備はいい) 3. 小麦粉を混ぜる 	<p>そばもち煎餅(仮)について</p> <ul style="list-style-type: none"> →そば粉を混ぜて10分ほど「混ぜておかないと生地が固くなる」というのが気になったので試してみたところ、お餅になりました →参加者も自分たちも大満足 →お餅も好評中 	<p>実施内容</p> <p>日貫にあるカフェ(一目)で2月18日に実施</p> <p>様々な地域(日貫、矢上、邑南)から親子2人1組で合計30組の参加</p> <p>スタッフも合わせて20名の方が参加</p> <p>参加者と一緒には餃子とそばもち煎餅(仮)を作った</p>	<p>活動の様子</p> <p>子供たちがワイワイ活動している様子です。笑顔の子供を見るのも私たちが笑顔になり、元気パワーももらいます！</p> 

<p>活動の様子</p> 	<p>加工食品の素材原料で作っている味噌（12割）やジャム（19割）も、廃棄しました。 廃棄量も増えました！</p> 	<p>アンケート結果</p> 	<p>考察</p> <p>日々の生活について悩まることが増えました。 加工食品や冷凍食品を使うようになってから、この問題を直して、食料がもたないような状態がなくなることを目指します。</p> <p>しかし、食料のロスに悩まれている方が多い。 大手な産地の農家は悩まらなかつたが、産地地帯でも悩まれています。</p>
<p>ご清聴ありがとうございました。</p>			

○研究名：恩食万命～フードロス削減への第1歩～

<p>恩食万命 ～フードロス削減への第1歩～</p> <p><メンバー> 上本 杏香音 次山 瑞生 森 謙向 柴田 大悟 野板 美太 山田 康輔</p>	<p>はじめに</p> <p>①日本で年間発生するフードロスの量はどのくらいでしょうか？</p>	<p>①65万トン ②650万トン ③6500万トン</p>	<p>コンビニ弁当 (一食約50g) 約1日6食消費分</p> <p>A.②650万トン</p>
<p>題目理由</p> <p>素の弁当の残飯が多い ↓ フードロスについて調べる ↓ 様々な段階でのフードロス 加工段階のフードロス 消費段階のフードロス</p>	<p>フードロスとは</p> 	<p>食品廃棄物 2942万トン フードロス 648万トン 消費段階でのロス 25万トン</p> <p>日本人の一人当たり消費食品廃棄物 世界で6位 アジアで1位</p>	<p>4. 研究内容</p> <p><消費段階でのフードロス> 食の残飯の弁当の残飯を削減する</p> <p>①毎日弁当の残飯の量を量る ②6日間ごとに量にまとめ、掲示する ③廃棄を対象にアンケートをとる ④廃棄量とアンケートの結果を照らし合わせる</p>
<p>①毎日弁当の残飯の量を量る</p> <p>毎日、弁当の残飯が持ち帰る際に、残量計で残飯の量を量った</p> 	<p>②6日間ごとに量にまとめ、掲示する</p> <p>残飯が弁当を回収する際に量を確認する</p> 	<p>③廃棄を対象にアンケートをとる</p> <p>アンケート：「今の弁当に満足しているか？」 結果・・・「この量の残飯が多い」「おかずのボリュームが少ない」という3つの意見が多かった。</p> <p>そこで、「この量を調整する」「おかずの種類を考える」という2つの改善案を考えました</p> 	<p>改善案1：弁当のおかずの量を調整する</p> <p>どのくらいのおかずの量が残っているのかのアンケートを取った結果・・・</p> 
<p>改善案2：弁当のおかずの種類を考える</p> <p>「どんなメニューの食感が良いか」というアンケートを取る</p> <p>結果・・・</p> 	<p>この2つの改善案を店の調理員さんに提案した</p> <p>調理員さんは私たちの提案を快く受け入れて下さいました！</p> 	<p>改善案1のアンケート結果をもとに調理員さんと相談をして3種類の食感のメニューに調整することにした</p> 	<p>弁当のおかずの量を減らした結果・・・</p>  <p>黄色の部分が、おかずの残飯の日</p>
<p>消費段階でのロス 考察</p> <p>①お弁当の残飯が持ち帰る目的</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートをとり、その人の食べ残しをどのくらい残すのかを把握した このようにお弁当を回収することが従来の量に対する意識を高める <p>②お弁当の残飯が持ち帰る目的</p> <ul style="list-style-type: none"> お弁当の残飯が持ち帰る目的が多かった 	<p>生産・加工段階でのロス</p> <p>生産・加工段階で発生したロス</p> 	<p>生産・加工段階でのロス</p> <p>GOAL</p> <ul style="list-style-type: none"> ①レトルトハンバーグカレーを商品化させ、フードロス削減に貢献する ②フードロスについて知ってもらう ③食に対しての感謝の気持ちをもってもらう 	<p>レトルトハンバーグカレー</p> <p>昌南町にある有限会社ディプロ・・・石見ポークの販売</p> <p>1人1皿で約80kg</p> <p>コース、バラ、肩ロース：約25kg ウズ、モモ：約2kg</p> 
<p>ほかの部位に比べてウデとモモは扱いにくい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの部位に比べて、下切りにくい ・臭いが強い ・お肉を量りにくい <p>豚の肉を大切にしているから、廃棄はしてほしくない！</p>	<p>170~180頭仕入れる</p> <p>1ヶ月に約10頭分</p> <p>『ウデ』120kg 『モモ』180kg</p> 	<p>『ウデ』と『モモ』の部位を使って商品化させよう！</p>	<p>◎保存がきく ◎野菜もお肉もとれる ◎簡単に食卓で出せる ◎幅広い年代で愛される</p> <p>レトルトハンバーグカレーをつくろう！！</p> 
<p>野菜は規格外となった野菜を使用</p> <p>産地直産で食べられるのに、規格として売れない野菜もたくさんある</p> <p>大きすぎる！ 小さすぎる！ 形が悪い、など</p> 	<p>農家さんから出た規格外となった野菜を使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大き目の野菜が規格外となつて廃棄されている A. 産地の10%が規格外 <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥野菜にする ・煮干し、漬 	<p>乾燥野菜と生野菜の比較</p> <p>乾燥野菜と生野菜を比較してカレーの味を比較する！</p>  <p>乾燥野菜 生野菜</p> <p>使用した野菜 ・なす ・たまねぎ ・パプリカ</p>	<p>乾燥野菜と生野菜の比較</p>  <p>乾燥野菜のカレー 生野菜のカレー</p> <p>乾燥野菜のカレー ・乾燥野菜は、野菜本来の風味が強い ・乾燥野菜は、野菜本来の風味が強い ・乾燥野菜は、野菜本来の風味が強い</p> <p>生野菜のカレー ・生野菜は、野菜本来の風味が強い ・生野菜は、野菜本来の風味が強い ・生野菜は、野菜本来の風味が強い</p>

<p>小松菜はカレーに合うのか？</p> <p>小松菜の独特な香りが出ているため、試作！小松菜の香みが出るのかな？</p>  <p>シャキシャキしていて、おいしい！小松菜採用◎</p>	<p>レストラン客夢見の方の協力</p> <p>カレーの作り方やカレーに合う野菜、そのほか一品類入はよいかなどを教えてくださいました。</p> 	<p>さつまいもカレー ジャがいもカレー</p> 	<p>先生に試食してもらいました！</p>  <p>職員室 校長 産業技術科職員室</p> <p>じゃがいも採用！</p>
<p>みんなの声</p> <p>山形県立高校 ・味にパンが乗る ・辛くない ・カレーに好きな野菜が足りていない</p> <p>さつまいもカレー ・野菜料理が苦手な人いる ・味がまろやか ・おいしさある中で辛さも食べやすい</p> <p>本館の意見 ・じゃがいもとさつまいもの2種類で作りやすい ・試作に合わせた野菜は採りにくい</p>	<p>使用する材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎ 産家から出た設備作品 ・にんじん ・小松菜 産家技術科から出た設備作品 ・さつまいも 有限会社ティプロさんの提供 (石見ポーク) ・炙りみそ 産家技術科から出た設備作品 ・ハンバーグ 産家技術科から出た設備作品 ・ローリエ(粉末) 産家技術科から出た設備作品 ・横浜舶来亭 	<p>サンプルを試食しました！</p> <p>2月完成予定</p> 	<p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売する(川本のスマイル、石見プラザ) ・可能であれば試食会を開催する ・悪食万命の普及でハンコづくり 
<p>パッケージ案</p>  <p>「産家の物語(つら)」 「じゃがいもカレー」 「さつまいもカレー」</p> <p>「産家の物語(つら)」 「じゃがいもカレー」 「さつまいもカレー」</p>	<p>側面</p> <p>食前に見るまで想像していたのとは違っていた</p>  <p>たくさんの方々の意見や協力のおかげで実現ができています</p>	<p>考察 <うまかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードロス削減に貢献 ・地域の人たちと深く交流 ・商品開発 <p><うまかった理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い、試食を何度も重ねたこと 	<p>考察 <うまくなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終計画で作らないうまくなかった ・年中販売できるカレーについてまだ考えることができていない <p>↓</p> <p>時間が足りなかった → この活動を1年生に引き継いでほしい！</p>
<p>全体の考察</p> <p>消費者側でのロス 加工工程でのロス</p> <p>フードロス削減への第一歩は産家と連携することです</p> <p>First Step!</p> <p>産家の方々の協力や経験も参考にしたいです</p>	<p>おわりに</p> <p>～みなさんにお願い～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前ではないということ ・感謝の気持ちをもって、「いただきます」「ごちそうさまでした」を言ってみようということ ・残さず食べて欲しいということ 	<p>タイトルに込めた想い</p> <p>悪食万命とは</p> <p>→ 全ての食べ物の命や、生産者の方々、調理される方々への感謝の気持ちを込めて食べてほしいという思いを込めて考えた言葉</p>	<p>ご清聴ありがとうございました！</p> 



・授業4：ポートフォリオと志望動機をつなげる！

(番外編) NEW STEPにチャレンジ！期末までの1週間の予定を立てよう！													年	組	氏名		
1週間後に行われる期末試験に向けて、7日間の「予定」を費こう。																	
1日目(6月22日(月))		2日目(6月23日(火))		3日目(6月24日(水))		4日目(6月25日(木))		5日目(6月26日(金))		6日目(6月27日(土))		7日目(6月28日(日))					
予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際	予定	実際				
5:00																	
6:00																	
7:00																	
8:00	学校	学校	学校														
9:00																	
10:00																	
11:00																	
12:00																	
13:00																	
14:00																	
15:00																	
16:00																	
17:00																	
18:00																	
19:00																	
20:00																	
21:00																	
22:00																	
23:00																	
24:00																	
1:00																	
2:00																	
3:00																	
4:00																	

《備考》

期末考査直前ということもあり、時間管理を意識するワークを実施。予定の横に実際の時間を書き込む事で、結果と原因を振り返るきっかけとした。

II：教科横断型カリキュラムの開発

1. 教科横断型カリキュラム

本校での教科横断型カリキュラムは、教員の「同じテーマについて、別の教科でも扱うことがある」という声をもとに検討が行われた。実際、社会問題は多様な理由が複雑に絡み合っており、多様な主体の参加が必要となる。そこで、生徒自身が一つのテーマを様々な視点から考える力を身につけてもらうため、一つのテーマとそれに関わる教科で横断する形式をとった。ただし、今年度は年度途中での調整であったため、予定を調整することができず、2種類のプログラムの策定にとどまっている。

また、教科同士の繋がりだけでなく、探究学習と教科学習の横断も重要であり、今年度は、地域の企業の出張授業にて教科と探究の横断、さらには学年をまたぐ取組を実施した。

2. プログラム策定までの流れ

①教科ごとの単元と予定の確認

家庭／保健体育／生物／公民／ビジネス基礎／総合的な探究の時間／農業（産業技術科）という、現実社会について考える機会の多い教科に焦点を当て、「単元名、内容、困っていること」を担当教員に挙げていただいた。

教科横断プログラムを作成するために

年	教科名	担当					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
単元名や内容を記入ください							
教科について困っていることなど							
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名や内容を記入ください							
教科について困っていることなど							

教員に挙げてもらった資料をもとに、各月と教科単元ごとに一覧に作成した。

本館作成 各担当教員より提供された資料を基に、教科横断型プログラムを作成しました。

*資料提供による「担当」は関係する教科のみを記載し、内容が重複している場合は、ご指摘ください。

単元	担当	単元	担当	単元	担当	単元	担当	単元	担当	単元	担当	単元	担当
植物	植物の観察	動物の観察	動物の観察	植物の観察	動物の観察								
動物	動物の観察	植物の観察	動物の観察										
公民	公民の学習												
英語	英語の学習												
数学	数学の学習												
理科	理科の学習												
音楽	音楽の学習												
美術	美術の学習												
体育	体育の学習												
保健体育	保健体育の学習												
家庭	家庭の学習												
農業	農業の学習												
産業技術	産業技術の学習												
総合的な探究の時間	総合的な探究の時間の学習												

②検討会議を実施



関連性が高い教科で教科書及び予定表を持ち寄り、どの単元で、いつ、どのような内容で「教科横断した授業」ができるかを話し合った。

(左写真)

「現代社会」や「保健体育」の教科書を見ながら、同じ分野があることに気づく

令和2年度に開発した教科横断型プログラム

1. 教科同士を横断するプログラム

今年度は、教科同士の横断では2つのプログラム、教科と探究の横断として1つのプログラムを作成した。上記の検討会議にて「食」「福祉」「生命倫理」などのテーマが出てきたため、実施日程を調整した。

■授業1：「未来の食卓を考えよう！」

- ・実施教員：保健体育科教員
- ・実施教科：総合的な探究の時間（1時間）
- ・対 象：普通科1年1組（30名）、1年2組（30名）
- ・実施日時：令和2年7月16日（木）
- ・横断教科：家庭「調理実習」／保健「健康的な食生活」／生物「タンパク質」／公民「需要と供給」
- ・教材：＜家庭×保健×生物×公民＞未来の食卓を考えよう！

「未来の食卓」として、2050年に起きると言われている食糧危機(タンパク質危機)をテーマに各教科の視点から分析した。様々な情報が必要となるため、「知識構成型ジグソー法」を用いて、エキスパート資料が各教科の内容を反映するものとした。



(左図) オリジナル開発したカード教材。
 それぞれ、「過労死・ブラック企業」「非正規雇用・ホームレス」「高齢者・障がい者」「8050問題・孤立死」といった社会問題になりうる設定を付与し、生徒はその役になりきって考える。



2. 教科と探究を横断するプログラム

運営指導員会やカリキュラム開発等専門家との協議の中で、「探究と教科のリンクができていない」との指摘を受け、年度途中ではあるが、探究学習の導入となる教科の授業を実施した。

■授業：「住環境をつくることは、地域をつくること」

- ・実施教員：家庭科教員／ゲスト講師：石見工業株式会社
- ・実施教科：家庭科（1時間）

- ・対象：普通科1年1組（30名）、1年2組（30名）、1年3組（33名）
- ・実施日時：令和3年3月18日（木）
- ・教材：住環境をつくることは、地域をつくること

課題 住環境をつくることは、地域をつくること

年 組 氏名

高校卒業してすでに、一軒家を持つことはほとんどないのではないかと思います。これまで学んだことを生かし、また想像を駆使しながら、自分からどの程度、どのような部屋の間取りにするかを考えてみましょう。後日プロの建築士の方から、どのように考えればよいかを教えていただく予定です。わくわくする部屋を考えてみましょう。

合格おめでとうございませう！
あなたは高校の東大に合格しました。4月から夢のキャンパスライフです！
不動産屋さんが「ここしかないんですよ」と紹介してくれたのは、
大学から徒歩10分の、とある集合住宅「コーポファクション」。
興味で「ここにします！」と決めてしまったあなた。
さて、どの部屋を選び、どのような間取りを希望しますか？

(1) 集合住宅「コーポファクション」の場所と周辺の環境を確認しよう！（地図には知らない場所があります）



(2) 集合住宅「コーポファクション」の中で、どの部屋の間取りを考えるかを決めよう！

部屋番号	101号室	102号室	103号室	104号室	105号室	106号室	107号室	108号室	109号室	110号室
●部屋番号を記入しよう										

理由

入口 駐輪場

*各階の様子、裏面を参照ください

(3) 快適に暮らすためには何を注意すれば良いのだろうか？

【日照（日当たり）】 【騒音（静かさ）】 【換気（風通し）】 【換気】
 【湿度（暑さ・寒さ）】 【通風】 【室内環境汚染】 【騒音・通風】 【換気】
 【ユニバーサルデザイン】 【プライバシー】 【方角】 【防犯】 【その他】

上に書いてあるキーワードの中から、間取り作りで生かしたいポイントをきまつてみよう

ポイント	具体的な工夫を考えてみよう
例) 騒音・通風	遮音性の高い窓や壁にする、遮音剤に壁紙を貼けない など
1:	
2:	
3:	

(4) 準備が整ったら、間取りを行ってみよう！

1時間目は、ワンルームの間取りを考える実物教材をもとに、松江市にあるマンションという設定で、部屋箇所や間取りを考えた。また、すでに学んでいる快適に生活するために必要な視点を振り返ることで、教科の学習と日常生活をつなげて考える視点を持つことをねらいとした。

課題 住環境をつくることは、地域をつくること～匠の視点編～

年 組 氏名

○ゲスト講師
匠の紹介

(1) 築年数ってどう見たらいいの？

1981年（昭和56年）・・・1978年の宮城県沖地蔵
 1995年（平成7年）・・・1995年の阪神淡路大震災
 2000年（平成12年）

(2) 各階のメリット・デメリットを確かめよう

	メリット	デメリット
最上階 5階	<ul style="list-style-type: none"> 防犯上強い プライバシー 生活音 ながめが良い 虫が入りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> バルコニーの自由度がない 移動がしにくい 下階への音の心配 火災時の対応が難しくなる 地震の揺れが大きい 築費が高くなる 暑くなりやすい
中間 2～4階	<ul style="list-style-type: none"> 防犯上強い プライバシー 生活音 ながめが良い 虫が入りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> バルコニーの自由度がない 移動がしにくい 下階への音の心配 火災時の対応が難しくなる 地震の揺れが大きい 築費が高くなる
最下階 1階	<ul style="list-style-type: none"> 庭があり、自由度がある 移動距離が短い 下階への音の心配がない 防災時など、逃げやすい 地震で揺れにくい 家賃設定が安い 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯上で弱い プライバシー 生活音（外の音、水道排水など） 床下が汚染 ながめが悪い 虫が入る 湿気が多い事がある

▶自分が希望する部屋に入れない（入居できない）かも...
 だからこそ、自分が入居したい部屋の [] を明確にしよう

(3) 「住環境をつくる」とはどういうことか？
 住む場所を決める

「 [] の一員になる
 「 [] の一員として、 [] をより良くするために行動する。」

①みなさんは、どのような地域に住みたいですか？

②今、みなさんは高層階という階層に住んでいます。高層階の一員として、高層階の「良い所」と「より良くした方がよい所」をメモしよう。

良い所	より良くした方がよい所

③高層階を「より良い」地域にするために、自分たちは何ができるかを考えよう。

(4) 小泉さんの話を聞いて、気づいたことや不思議に思ったことをメモしよう

「石見工業株式会社の業績」

家づくりは [] である

2時間目は、住まいを決めることは、地域の一員になるという観点から、どのような地域に住みたいと思うのか、また邑南町をどうしたら住みやすい環境になるのかを話し合った。石見工業株式会社からは、「匠の目」としてどのように地域を分析するのか、地域の企業として、邑南町を住みやすい環境にするために何をしているのかを紹介してもらった。

Ⅲ：学校設定教科「起業探究」の設置

1. 学校設定教科「起業探究」

本校普通科では、選択教科で商業科の「ビジネス基礎」等を実施していたが、選択者がより探究的かつ、即戦力として活躍できる資質・能力の向上を図るため、新たに学校設定教科「起業探究」を設置することにした。学校設定教科にすることで、起業ノウハウや知見の蓄積のみならず、総合的な探究の時間の内容の充実や担当教員の拡充などを期待できる。

2. カリキュラム策定までの流れ

本年度の授業実施はないため、教材作成を行なった。他校で行われている起業家教育を参考にしながら、「本校ならではの」「邑南町ならではの」の視点を加え、オリジナル教材を作成した。

①コンセプトの原案作成

魅力化推進センターにて、コンセプトの原案を作成。邑南町での起業として、「地域住民らで作る」「飲食店」「農業」といった特徴が上がった。

②「起業探究」ワーキンググループ



邑南町商工観光課、地域団体とともに、「邑南町ならではの」「矢上高校ならではの」の内容を検討。

人口減少などの町の課題について取り上げてもらいたい、また販売実習、マーケティングの重要性など、それぞれの立場や経験に基づき、「起業探究」の内容を深めていった。

③カリキュラム開発等専門家との協議

2年間のカリキュラムの元ができたので、カリキュラム開発等専門家と協議。「邑南町らしさとして、A級グルメ施策を体感するのはどうか」など具体的なアドバイスをもらい、本校の産業技術科という特徴を生かすために、普通科であっても「6次産業」を学ぶことができるなどの内容へ変更した。

④年間予定の立案と内容の修正

総合的な探究の時間との兼ね合い（学校設定教科は選択教科であるため、選択者と非選択者に分かれる）や、年間計画との調整により、内容の微調整を行なった。

3. 起業探究グランドデザイン

Yakami Local Entrepreneurship Learning Grand Design

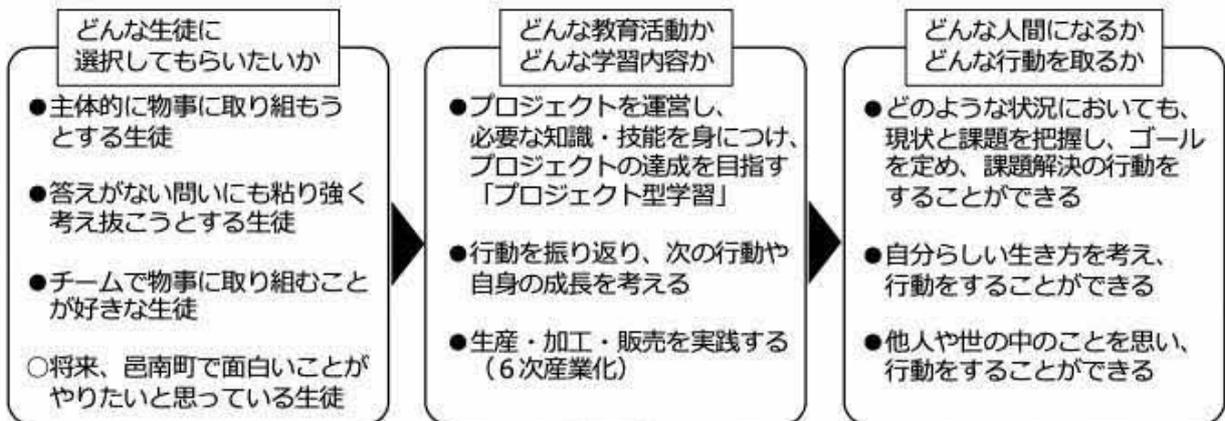
矢上高校「起業探究」グランドデザイン

《私たちができること ～矢上高校「起業探究」の「起業」とは?～》

ゼロから価値を生み出すことや周りを巻き込み、他人や世の中、自分のために行動できる人間を育みたい。「起業」は継続を伴う課題解決であり、自らがどうしても成し遂げなければならないものである。1回で終わるのも、他人任せでもダメ。「自分がやらなきゃダメだ!」という強い意思とその行動が、矢上高校の目指す「起業」である。

ビジョン

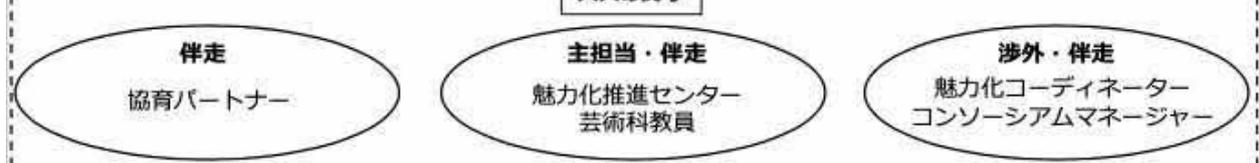
「働く場所がない」と思われている邑南町に、働く場所を自ら作り出し、自分らしく生きる人間が増え、邑南町や日本全国の田舎が輝き、元気を取り戻す。



《カリキュラム内容》

起業探究 I	ゼロから価値を生み出す	課題を解決する (総合的な探究の時間)	自らの生き方・方向性を考える
	市場分析をする 事業計画を立てる 生産する 収穫する 加工する 販売する 経営分析 (収支決算)	チームビルディング 現状を把握する 理想を設定する 課題を理解する 課題解決策を考える 課題解決策を実践する	企業理念を考える 起業という生き方 起業家との出会い (講演) 会社を設立しよう 自身の経験を振り返る 「里山資本論」読解
起業探究 II	町の課題を解決するビジネス (社会起業) を考え、行動する		自らの生き方・方向性を考える
	チームビルディング (地域とチームになる) 現状を把握する / 市場分析をする 理想を設定する / 経営理念を立てる 課題を理解する 課題解決策を考える / 事業計画を立てる 課題解決策を実践する <準備・販売等、コラボ> 経営分析 (収支決算)		自分の理念を考える 自身の経験を振り返る 自身の経験とプランの発表 起業家との出会い (講演) 地域の人による伴走 「半農半X」読解

大人の関与



イベント報告

1. 普通科課題解決型学習発表会

○日 時 令和2年12月22日(火) 13:20-16:10

○会 場 矢上交流センター (オンラインにて視聴可能)

○講 師 島根大学教育学部 作野広和教授 (カリキュラム開発等専門家)

○参加者 普通科1年(60名)、普通科2年(42名)、教職員(6名) オンライン参加(10名)

○日 程

13:20 概要説明

13:30-14:30 前半4チーム発表(各チーム10分発表+5分質疑)

14:40-15:40 後半4チーム発表(各チーム10分発表+5分質疑)

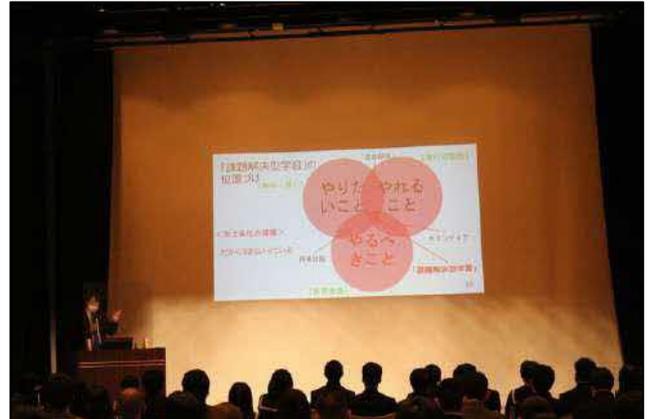
15:50-16:00 全体講評 島根大学教育学部 作野広和教授

16:00-16:10 結果発表等

○発表タイトル

- ・本来の自然を取り戻そう
- ・日貫×邑南ドリームプロジェクト
- ・バリアフリーを目指して
- ・空き家を使って物々交換!
- ・おいでよ 香木の森公園
- ・洗心庭を魅力的にしよう
- ・出羽の魅力を再発見するために
- ・恩食万命 ～フードロス削減への第1歩～





2. 未来フォーラム

○日時 令和3年1月27日(水) 9:00-11:45

○会場 邑南町健康センター元気館 (オンラインにて視聴可能)

○講師 邑南町長 石橋良治 / 日本総合研究所 藻谷浩介

○参加者 普通科1年(60名)、普通科2年(42名)、普通科3年1組(33名)、
産業技術科1~3年(86名)、教職員(30名)、オンライン参加(15名)

○日程

8:45-9:00 オンライン接続

9:00-9:10 開会式

9:10-10:00 3チーム発表 (*各チーム15分発表等)

10:10-10:40 2チーム発表 (*各チーム15分発表等)

11:00-11:20 講評 邑南町長 石橋良治氏

11:20-11:40 講評 日本総合研究所 藻谷浩介氏 (*オンライン)

11:40-11:45 結果発表、閉会式

○発表タイトル

- ・バリアフリーを目指して (普通科)
- ・空き家を使って物々交換 (普通科)
- ・恩食万命~フードロス削減への第1歩~ (普通科)
- ・GAP~活用できる場所を作ろう~ (産業技術科)
- ・第12回全国和牛能力共進会を目指して (産業技術科)



3. 探究学習シンポジウム

○日 時 令和3年2月20日（土） 10:00～12:30

○会 場 矢上高校（オンライン）

○参加者 行政関係者[教育委員会／自治体／コンソーシアム]：8名
 学校関係者[小学校／中学校／高校／大学／大学生]：4名
 教育関係者（研究所等）：4名
 地域住民：5名（組）

○日 程

9:30 受付

10:00-10:05 開会式

10:05-10:35 《基調講演》“探究学習の意義”

独立行政法人教職員支援機構センター長 清國祐二 氏

10:35-10:45 《事業報告》”しまね教育魅力化ビジョンにおける探究学習の位置付け”

島根県教育委員会

10:45-11:10 《事業報告》“おおなん協育プロジェクトについて”

島根県立矢上高等学校

11:20-12:00 《座談会》話者、参加者同士が繋がり、困っていることや不安なことなどを共有し、
 解決策について考える。

12:00-12:25 《振り返り》座談会の内容を共有し、参加者全体で学びを深める

令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定校



矢上高校 探究学習シンポジウム

日時 2/20(土) 10:00-12:30
会場 オンラインにて開催

矢上高校では、文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、地域人育成のためのプログラム開発を行っているところです。本校の取組を知っていただき、このシンポジウムが「探究学習」について共に考えるひとつの機会になれば幸いです。高校のみではなく、小学校、中学校、特別支援学校、大学等、教育に興味のあるすべての方にご参加いただき、ご参加のみなさまにとって学びの多い時間になりたいと思います。なお、本校で開催した探究学習の発表の様子については、お申し込みいただいた方に見ていただけるようにいたします。

第1部 《基調講演》 (10:05-10:35) 第2部 《座談会》 (11:20-12:00)

“探究学習の意義”

〇講師

独立行政法人教職員支援機構

つくば中央研修センター長

清國祐二氏

《事業報告》 (10:35-11:10)

〇島根県教育委員会

“しまね教育魅力化ビジョンにおける探究学習の位置づけ”

〇矢上高校の取り組み

“おおなん協働プロジェクトについて”

《座談会》 (11:20-12:00)

話者、参加者同士が繋がり、困っていることや不安なことなどを共有し、解決策について考えます。

《振り返り》 (12:00-12:25)

座談会の内容を共有し、参加者全体で学びを深めていきます。

申込み切：2/13(土)

お申し込みフォーム

お申し込みフォームにご記入いただき、FAXもしくはご持参ください。事前に資料をお送りしますのでお間違いのないようお願いいたします。

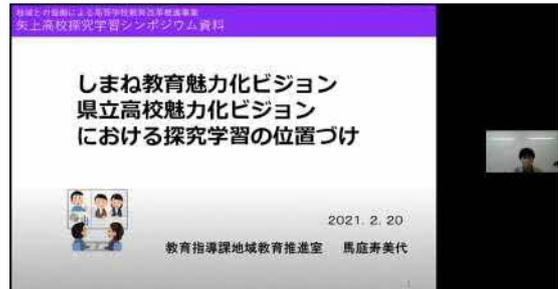
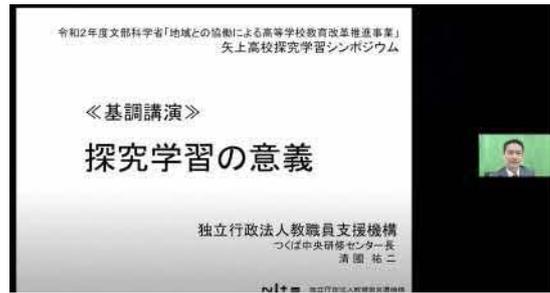
名前			連絡先	
区分	<input type="checkbox"/> 学校関係者 [小学校/中学校/高校/大学/大学生] <input type="checkbox"/> 行政関係者 [教育委員会/自治体/コンソーシアム] <input type="checkbox"/> その他 ()		所属先	
メールアドレス				
座談会テーマ	<input type="checkbox"/> 探究学習：カリキュラム <input type="checkbox"/> 探究学習：校内体制 <input type="checkbox"/> 傍聴のみ希望 <input type="checkbox"/> その他 ()	特に議論したいこと		

* Zoomというウェブ会議システムでの配信を予定しています。スマートフォンから視聴予定の方は、アプリケーションのダウンロードをお願いします。パソコンから視聴される方は、専用のダウンロードは不要です。

* Wi-Fiなど、インターネット環境での利用をお勧めします。* Zoomのダウンロードはこちらから→ <https://zoom.us/>

お問い合わせ

矢上高校魅力化推進センター 石原・小林
TEL：0855-95-1105 FAX：0855-95-1995



○本校の報告内容

<p>令和2年度 島根県立矢上高等学校 地域との協働による 高等学校教育改革推進事業 “おおなん協働プロジェクト” 事業報告 令和3年2月20日(土) 矢上高校魅力化推進センター</p>	<p>矢上高校とは</p>	<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> そもそもなぜ手を挙げたのか どんなことに取り組んだのか 結果、どうなったのか 考察 うまくいったこと、うまくいかなかったこと 課題 ～資源から考える～ 今後の対応/次年度に向けて (アイデアベース) 	<p>(1) そもそもなぜ手を挙げたのか</p> <p>【協働の目的】 ① 「総合的な学習の時間」で「他校との協働」に変わって、内容は変わっていないが、協働の意義を再確認。 ② 「協働」ではなく、単体でもない。「協働」だった。 ③ 「協働」にこだわらず、協働の意義を再確認。 ④ 「協働」にこだわらず、協働の意義を再確認。 ⑤ 「協働」にこだわらず、協働の意義を再確認。</p> <p>【協働の意義】 ① 他校との協働による探究学習の実践を促進させたこと。</p>
<p>(2) どんなことに取り組んだのか</p>	<p>(2) どんなことに取り組んだのか</p> <p>目的 ふるさとを思い地域の未来をつくる人を育成する</p> <p>1：総合的な探究の時間の再構築 2：教科横断カリキュラムの整備 3：学校設定教科「起業探究」の設置</p> <p>コンソーシアムを組織する</p>	<p>(2) どんなことに取り組んだのか</p> <p>【総合的な探究の時間の再構築】 ・授業実施は、学習会（生徒）へ ・企画は「産科指導員」から「他校連携センター」 ・アドバイザーズミーティング、スライドなど整備</p>	<p>(2) どんなことに取り組んだのか</p> <p>【教科横断カリキュラムの整備】 ・教員とアソビ「他校の教員で、同じようなことを学んでいる」 ・「おおなん協働プロジェクト」実施</p> <p>【1学期】 ① 探究・協働・起業探究 ② 探究・協働・起業探究</p> <p>【2学期】 ① 探究・協働・起業探究 ② 探究・協働・起業探究</p>

(2) どんなことに取り組んだのか

【学校指定教科「経営探究」の位置】
今後は、教科書作りが目標
分）システム開発等専門家、島根県商工観光課、地域国交と協働

【経営探究の位置づけ】
探究学習の位置づけ
探究学習の位置づけ

(3) 結果、どうなったのか（指標）

項目	目標	達成率
【経営探究】 【探究活動】 【探究活動】	「地域の課題解決活動について考える」 「探究活動」 「探究活動」	53% 53% 45% 45.7% 40% 47.7%
【探究活動】 【探究活動】 【探究活動】	「探究活動」 「探究活動」 「探究活動」	40% 40% 40% 40% 40% 40%

(3) 結果、どうなったのか（指標）

項目	目標	達成率
【経営探究】 【探究活動】 【探究活動】	「地域の課題解決活動について考える」 「探究活動」 「探究活動」	53% 53% 45% 45.7% 40% 47.7%
【探究活動】 【探究活動】 【探究活動】	「探究活動」 「探究活動」 「探究活動」	40% 40% 40% 40% 40% 40%

(4) 考察 うまくいったこと、うまくいかなかったこと

うまくいったこと

うまくいかなかったこと

(4) 考察 うまくいったこと、うまくいかなかったこと

うまくいったこと

うまくいかなかったこと

(5) 課題 ～資源から考える～

- 地域での評定者が不在
- 校内での評定者が不明確（校務体制）
- 生徒自身が学びを振り返るツールが不在
- 安定した探究学習用の予算の確保（バス代、試作費等）
- 予算の有無に関わらず学習の担保ができる内容へ
- 取り上げる課題やテーマ設定が難しい
- 探究と教科の連携ができていない
- 総合的な探究の時間だけで終わらない（仮）
- 課外の時間の扱い（生徒負担も、研修も確保も学校負担も）

(6) 今後の対応/次年度に向けて（フィードバック）

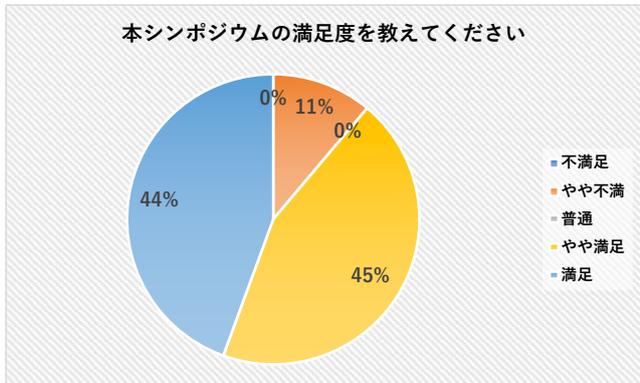
- 地域で「協賛パートナー」を設定し、存続のための研修を実施
- 併走者を設定し、オフィスアワーのような制度を設計
- Google Classroomで実施中だが、デバイスの有無に影響を受けないよう、オンラインではなく、オンザランド形式にする
- 企業からの賛助/資金と同時に課題解決のテーマも設定？
- 外に出るだけでなく、外から来てもらう時間も検討する
- 得意な情報をまとめたガイドブックを現在、作成中
- 探究と教科をつなぐ（振り返り）授業やテーマ設定
- 年間計画を立ててメリハリをつける/地域系活動へ引き継ぐ
- 教員も探究学習可能な範囲を設定する

まとめ

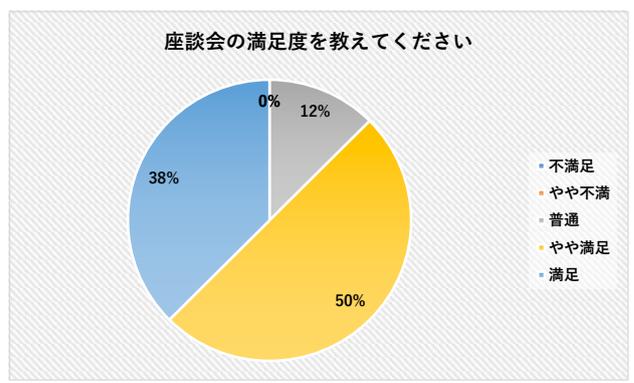
よりよい探究学習のために必要なこと

- 「ねらい」の設定と、その共有
- 「ねらい」を軸に問いをしないために、授業をマネジメントする（＝教育資源を配分する）
- 「ねらい」と「問い」を軸に問いをしないために、授業をマネジメントする（＝教育資源を配分する）

○シンポジウムの満足度



○座談会の満足度



○シンポジウムに参加してよかった（学ぶことができた）と思うことはどのようなことでしたか。

- ・清國先生、馬庭指導主事の話であらためて探究学習の位置づけを確認できた。矢上高校の振り返りの中で、経営資源別に課題や対応を考えるという視点が参考になった。
- ・探究学習の意義や可能性について改めて考えることができた
- ・現場の課題感がよくわかったですし、新たな視点（部活動×探究等）も学べました
- ・清國先生と考えが共有出来たと思う
- ・探究学習を運営していく上で、様々な重要な点を確認し、学ぶことができて、良かったです。
- ・校長先生以下、しっかり取り組みたいという覚悟が見られたことでしょうか。とてもすがすがしい気持ちになりました。期待しています。
- ・私は義務籍の教員ですので、高等学校の探究活動の様子を知ることができたことが良かったです
- ・座談会で働き方改革についての視点をいただいたこと

○本シンポジウムや学校での探究学習についての感想等を教えてください。

- ・各学校での探究学習は進展し続けていて、今回のように生徒の発表を共有した上で、それを進める大人視点での振り返りを共有する場の意義は大きいと感じた。座談会に参加出来ず残念だったが、この様な機会をつくっていただき、ありがとうございました。
- ・1年間お疲れ様でした。2年目の取組も注目しています。
- ・学生の自ら探究課題を見つけるのは難しいと思う。邑南町には地区別戦略を行っている、これをこうした方がいい。学校に各地区から地区別戦略の課題目標を発表する場を設ける（各地区から来てい

ただく＝地域とのかかわりが深くなる＝地域の理解も深まる。)。後フォローも大切。清国先生も言われていたが、プロモーションビデオを成果物として作らせる＝学生にも力が入る。

- ・ 素適な機会をありがとうございました！
- ・ 探究学習の意図が分かり、シンポジウムに参加して良かったです
- ・ 今回、時間の観点でもいろいろお話がされていましたが、発表の中にもあったように、どれだけ教員が手放せて行えることができるかということや教科や部活動など中で総探の時間以外で探究的に学ぶ体制をつくれるかということが重要だと感じました。また、生徒さんの発表の動画をみて、自分たちの身の回りのことをテーマにし、実践的に活動し、データを取りながら研究を進めている姿はとても主体的で、今後にもつながっていくような活動で魅力的でした。探究学習について理解を深めるよい機会となりました。ありがとうございました。
- ・ そうは言っても、ふるさと教育と高校魅力化に齟齬が生じないよう、また地域の持続可能性に寄与するよう、探究の時間が成立すればよいと思います。
- ・ 本日は、探究学習シンポジウムとして、貴重な時間を提供頂きありがとうございました。座談会でも話しましたが、私が矢上高校さんを知ったのは2か月前です。選抜の中国地区候補になり、矢上高校さんの野球部の活躍、学校全体の探求学習をはじめとする取組を知り興味を持った次第です。地域との関わりの中で探究学習は、学び深めていくものと思います。その土台としての家庭科や公民科などの各教科との連携等、カリキュラム・マネジメントの工夫がとても参考になりました。今後、益々の矢上高校さんのご発展を願い、本シンポジウムの感想と致します。ありがとうございました。
- ・ 地域活性化に向けた活動を高校生がされており、課題解決ができる資質・能力を育てられようとしていることがよく分かりました。

実施体制報告

1. 運営指導員会

【第1回運営指導員会】

- 日時 令和2年7月22日(水) 16:00～17:00
- 会場 矢上高校(オンライン)
- 参加者 清國 祐二(独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センターセンター長)
馬庭 寿美代(島根県教育委員会教育指導課企画幹)
日高 輝和(邑南町副町長)
志波 英樹(矢上高校校長)
奈良井 瑞恵(矢上高校教頭)
石原 寛治(矢上高校主幹教諭)
田村 成生(邑南町地域みらい課)
小林 圭介(矢上高校魅力化コーディネーター)
- 内容
 - (1) 本事業概要
 - (2) 令和2年度事業計画について
 - (3) 協議等(質疑応答・意見交換)

【第2回運営指導員会】

- 日時 令和3年2月20日(土) 13:00～14:30
- 会場 矢上高校(オンライン)
- 参加者 清國 祐二(独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センターセンター長)
馬庭 寿美代(島根県教育委員会教育指導課企画幹)
日高 輝和(邑南町副町長)
志波 英樹(矢上高校校長)
奈良井 瑞恵(矢上高校教頭)
石原 寛治(矢上高校主幹教諭)
田村 成生(邑南町地域みらい課)
小林 圭介(矢上高校魅力化コーディネーター)
- 内容
 - (1) 令和2年度事業報告
 - (2) 振り返り(成果と課題)、次年度計画について
 - (3) 協議等(質疑応答・意見交換)
 - (4) その他

2. コンソーシアム総会

○日 時 令和2年9月30日(水) 15:30~16:30

○会 場 矢上高校

○参加者 田村 哲(邑南町地域みらい課)

名目良 明利(島根県教育委員会教育指導課指導主事)

湯浅 康平(邑南町教育委員会学校教育課)

佐々木 千尋(島根県立石見養護学校)

河鱈 正信(矢上高校地域応援団)

志波 英樹(矢上高校校長)

奈良井 瑞恵(矢上高校教頭)

石原 寛治(矢上高校主幹教諭)

田村 成生(邑南町地域みらい課)

小林 圭介(矢上高校魅力化コーディネーター)

○内 容

- (1) コンソーシアム規約
- (2) 令和2年度事業計画
- (3) 令和2年度中間活動報告
- (4) その他



取り組み成果と次年度に向けて

1. 取り組み成果

指標	項目	目標	結果
成果目標 (高校魅力化 評価システム) *7月実施	“地域の課題の解決方法について考える”生徒の割合	55%	60%
	“将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う”生徒の割合	45%	54.7%
	“地域社会などでボランティア活動に参加した”生徒の割合	40%	47.7%
高校の 活動指標 *3月時点	研究授業等の回数	6回	2回
	普及・促進のためのワークショップやシンポジウムの開催回数	2回	1回
	協育プログラム教材の制作及びその公開単元数	4本	8本
地域の 活動指標 *3月時点	地域による授業の実施回数(地域でのフィールドワークなど含む)	8回	8回
	運営指導員会やカリキュラム開発、 コンソーシアム構築・運営のための会議回数	9回	7回

生徒の変容については、3月末に島根県の「高校魅力化評価システム」を実施し、再度確認する。高校及び地域の活動は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、不要不急の活動を自粛し、変更を行った(6ページ参照)。次年度、新型コロナウイルス感染症蔓延状況によって、変更も余儀なくされるが、オンラインツールや少人数での行動など工夫したい。

2. 生徒へのアンケート結果

○探究学習の活動(5月～12月)を通じて、どのような力が身についたと思いますか
(生徒の意見を抜粋)

身についたと思う力	発揮された場面
実行力	地域に行って問題を見つけたりそれを解決したりする時
働きかけ力	先生を巻き込みながら、アンケートを取っていただいたり、沢山協力をしていただいて、活動を成功させることが出来ました。
主体性	掃除や運営、レポートやスライドをまとめている場面で鍛えられたと思いました。
主体性・実行力	企画を行う際や役場へ、フィールドワークへ出向いた際に発揮できた。
計画力・想像力	班のメンバーと今後の計画を練ったり、アイデアを出し合った際はこの二つの力が求められた。
状況把握力	班長だったので、何度も判断を下す場面があり常に必要とされたと思う。
規律性	役場と看板を使ってタイアップを試みた際
実行力	私のチームは丸太で椅子を作ったり写真展示会をしたり、課題解決のために行動出来ました。

発信力	地域の方と話す場面でアイデアを出し合う時
想像力	今までになかった0円ショップというものを一から作っていく時に想像力が鍛えられた
想像力、主体性	パワーポイントを作るときに発揮されたと思う
課題発見力	アンケート実施、集計、傾向分析

生徒の中には、「自分がこんなことできるなんて思わなかった」「やってよかった」と感想を漏らす生徒もおり、主体性等のみならず、自尊感情の醸成にもつながるであろう。

2. 次年度に向けて

○総合的な探究の時間

「実践（アクション）」を重視し、土日に実施する生徒の姿が見られた。しかし放課後の利用など、授業時間以外の時間での実施が大きい。部活動への影響も大きかったのではないかと（逆に部活動を実施していない生徒が多いところは実践が盛んに行われている傾向がある）。次年度は、「実践」以外の教育活動は授業時間内に納める。特に部活動への支障をきたさないよう、「フィールドワーク（2~4時間×2回）」や「実践アイデア作り（2時間）」など時間のかかるものは、予め確定させる。また、伴走者の関与具合によってもアウトプットに差が生じることがわかった。地域の人材を「協育パートナー」として認定し、生徒の伴走をお願いしたい。

○教科横断型カリキュラム

教科を横断するにあたって、各学期での評価（どの教科で評価するのか）が課題となっている。年度途中から教科横断となっていたため、次年度計画を立てる際に単元計画を調整し、教科横断の予定を調整する。

○学校設定教科「起業探究」

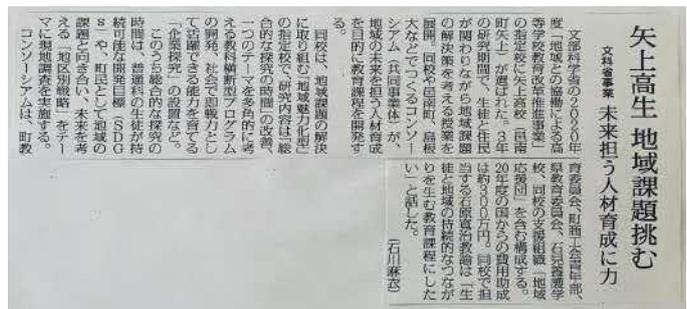
今年度は、教材開発を行なった。総合的な探究の時間で活用できる内容であるため、相互の連携を図り、内容の充実を図る。ただし、学校設定教科「起業探究」の選択者と非選択者で差が生じないような工夫を心がける。また、フィールドワーク等はあらかじめ予定を立てておく。

《新聞記事》

日付	出所	記事タイトル
2020.05.21 (木)	中國新聞	邑南の矢上高 指定校に
2020.06.05 (金)	山陰中央新報	矢上高生 地域課題挑む
2020.07.22 (水)	山陰中央新報	30年後の食事 想像して 邑南・矢上高生食糧危機問題考える
2020.07.25 (土)	山陰中央新報	石見和牛一頭分間隔あけよう
2020.08.02 (日)	中國新聞	人との距離は和牛1頭
2020.12.23 (水)	山陰中央新報	フードロス減らせた 矢上高 身近な課題解決策探る
2021.01.28 (木)	中國新聞	邑南町の課題解決 矢上高生発表会
2021.02.11 (木)	山陰中央新報	邑南での暮らし考えて U・Iターン者 矢上高生に魅力語る

《テレビ報道》

放送期間	放送区域	番組タイトル
2021.01～2021.02	島根県全県下	地域とともに未来を描く！～高校生の地域課題解決型学習～



2020.06.05 (金) 山陰中央新報



武田正文さん（左）の話を聞く生徒

邑南での暮らしを考えて

U・ターナー 矢上高生に魅力語る

若者に将来の人生設計のヒントを話すとともに、ふるさとへの愛着を育んでもらう「はばたき講座」が10日、邑南町矢上の矢上交流センターであった。卒業を控えた矢上高校、邑南町矢上の3年生50人が、U・ターナー氏から話を聞き、考え方の参考にした。

高壽寺「回町鶴淵」の副住職武田正文さん(55)や町社会福祉協議会に勤務する石田麻衣さん(38)ら島市出身の4人が登壇した。

「郡会は給料が高いんですか」という生徒からの質問に、石田さんが「お金の大切だが自分がどんな生活をしたいのか、どう生きたいのか考えてほしい」

「若者に将来の人生設計のヒントを話すとともに、ふるさとへの愛着を育んでもらう「はばたき講座」が10日、邑南町矢上の矢上交流センターであった。卒業を控えた矢上高校、邑南町矢上の3年生50人が、U・ターナー氏から話を聞き、考え方の参考にした。

「郡会は給料が高いんですか」という生徒からの質問に、石田さんが「お金の大切だが自分がどんな生活をしたいのか、どう生きたいのか考えてほしい」

(石川麻衣)

令和2年度 島根県立矢上高等学校

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」活動報告書

おおなん協育プロジェクト～邑南町総がかり！協働で育む“協育”カリキュラムの開発～

発行日 令和3年3月5日

編集・発行 島根県立矢上高等学校 魅力化推進センター

〒696-0198 島根県邑智郡邑南町矢上3921

TEL 0855-95-1105（代表）

FAX 0855-95-1995

印刷 社会福祉法人わかば会 邑智園